研究成果報告書 科学研究費助成事業

今和 5 年 6 月 9 日現在

機関番号: 32682

研究種目: 基盤研究(A)(一般)

研究期間: 2018~2022

課題番号: 18H03612

研究課題名(和文)法的判断の構造とモデル化の探求:AIはリーガル・マインドを持てるか?

研究課題名(英文)Modeling the Legal Decision-Making: Al and Legal Mind

研究代表者

太田 勝造 (OTA, Shozo)

明治大学・法学部・専任教授

研究者番号:40152136

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 32,800,000円

研究成果の概要(和文):法専門家と法の素人にMRIに入ってもらい,殺人共謀共同正犯事件と日常的事例を判断してもらう実験をした.データ分析によれば,法的判断の際には,認知に関わる部位も,感情に関わる部位も活動していることが明らかとなり,リーガルマインドは,理性対感情という単純な対立では捉えられないことがわかった.反省悔悟をしている被告人の減刑判断において,法専門家は機能連結が少なく,法の素人は多くの機能連結が生じており,苦労して判断していると解釈される.他方,反省悔悟をしていない被告人の増刑判断においては,法の素人は感情による認知へのコントロールが生じ,法専門家では逆に,認知による感情へのコントロ ールが生じていた.

研究成果の学術的意義や社会的意義 リーガル・マインドを持つ法専門家の法的判断は古くから議論され,理性中心との主張の方が多数派であった が,それが正確ではなく,法的判断も理性と感情の双方からなる複合的判断であることを脳科学的に明らかにし て,従来の議論に科学的解明を与えたことは法学上画期的である.認知・理性関連脳部位と感情関連脳部位の間 の連結性の方向が,反省悔悟のない悪い被告人の量刑を加重する際に,法の素人は感情部位から認知・理性部位 へと向かう連結性が生びるのに対し,法専門家は逆方向で認知・理性が感情をコントロールしているとの知見 は,脳科学的に画期的である. 成果は法学教育,法曹養成,法実務に大きな影響を与えうるものである.

研究成果の概要(英文): We put legal experts and lay persons into fMRI and have them make decisions on both sentencing decisions and daily matter decisions. The brain-scanned date analysis yield; (A) during the legal decision-makings, both emotion-related brain areas and cognitive/reason-related brain areas are activated. Thus, legal mind is not either rational or emotional, but a mixture of them. (B) During the sentencing decisions for good defendants with remorse, activated brain areas of legal expert are much simpler than those of lay people. Thus, legal expertise means efficient use of brain on legal decision-making. (c) While making sentencing decisions for bad defendants without remorse, we find the direction of connectivity from cognitive/reason-brain area toward emotion-brain area among legal experts, while the direction of the connectivity among lay people are reversed. Thus, legal experts are controling emotion by reason while lay people are controling reason by emotion.

研究分野: 法社会学

キーワード: 法的判断 リーガル・マインド 脳神経科学 Dyanmic Causal Modeling 法専門家と法の素人 法的判断と日常的判断 感情と理性 量刑判断

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等に ついては、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1.研究開始当初の背景

法律学の分野と,脳神経科学の分野を横断する共同研究は世界的にもほとんど見当たらない状況であった.fMRIの撮像データを分析できる脳神経科学者と,法学専門の研究者の共同研究自体が日本には全く存在しなかった.したがって,リーガル・マインドを持つ法専門家(弁護士・検察官・裁判官)の法的判断の構造を脳神経科学的に解明する研究は日本には皆無であった.

2.研究の目的

文理融合の学際的研究として,法学分野と脳神経科学分野を横断する研究として,リーガル・マインドとは何か,を明らかにすることが目的である.そのために,まず,法的判断における脳機能と日常的判断における脳機能との異同を明らかにする.さらに,法専門家と法の素人の法的判断における脳機能の異同を明らかにする.

3. 研究の方法

法専門家と法の素人に fMRI (機能的磁気共鳴画像装置)の中で法的判断 (量刑)と非法的日常的判断をしてもらい,その間,脳の撮像を継続して脳画像データを取得する.

実験参加者は,法専門家として司法試験合格者30名(内女性8名),法律家(弁護士)8名(内女性3名),であり,法の素人として,法学を学んでいない学部生28名(内女性9名)である. 法的判断としては,2名の被告人が共謀して,強盗殺人を犯した事例を5事例作成し,対照実験として日常的判断事例を5事例作成する.事例のシナリオを読んで,実験参加者に量刑判断をしてもらう.その上で共謀共同正犯のうちの一人は反省悔悟をしていることを示して,実験参加者に量刑判断をしてもらう.もう一人の被告人は反省悔悟の欠片も示していないことを示して,実験参加者に量刑判断をしてもらう.なお,反省悔悟のある良い被告人と反省悔悟の欠落した悪い被告人の提示順序はランダム化した上で実施する.量刑の程度については0~100の数値で回答(レーティング)してもらう.なお,0が最も軽い刑,100が最も重い刑として判断してもらう.日常的判断についても,fMRIの中で判断をしてもらう.事例としてはコーヒーの温度の判断などである

法的判断の際の法専門家の脳の賦活部位と,法の素人の脳の賦活部位を比較するとともに,脳の 賦活部位の連結性とその方向性について統計学的に分析する.

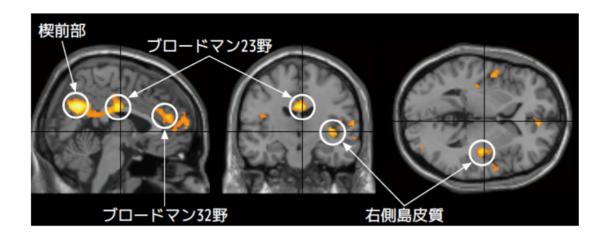
同じ事案を用いて,社会実験(フィールド実験)の手法も併用して,一般人の法的判断を調査研究する.リスク選好や,法意識などについての質問票調査も実験参加者に実施してもらうとともに,一般人に対してもコントロールとして実施する.

以上の複合的手法を駆使して、リーガル・マインドの本質に迫る、

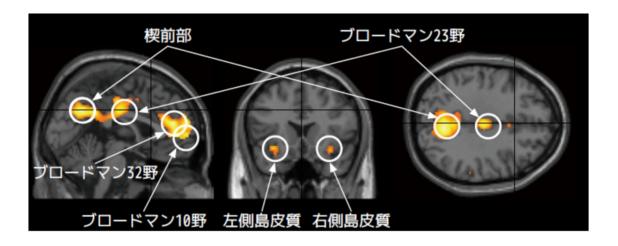
4. 研究成果

(1)量刑判断の傾向は法専門家も法の素人も同じであった.すなわち,反省悔悟が有る被告人に対しては,反省悔悟情報を与えられる前よりも減刑する傾向が有意である(情状酌量).これはすべての犯罪事例で同様である.

脳の賦活部位も法専門家と法の素人とで同じである.すなわち,認知判断に関わる部位と感情をつかさどる部位の双方が賦活する点で,同様である.反省悔悟をしている被告人の刑をどれだけ減らすか,を考えている際の脳の活動部位を示す下図を参照.



このように認知コントロール・理性に関わる部位であるブロードマン野(以下,BAと略す)である BA32と BA10が賦活するとともに,感情をつかさどる部位である島皮質も賦活している. 反省悔悟をしていない被告人の刑をどれだけ増やすか,を考えている際の脳の賦活部位を示すのが以下である.

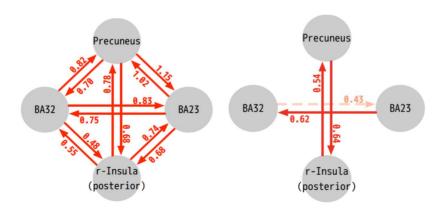


このように,同様に,認知コントロール・理性に関わる部位である前頭前野,すなわちブロードマン野(以下,BAと略す)である BA32 と BA10 が賦活するとともに,感情をつかさどる部位である島皮質も賦活している.

以上から,法専門家も法の素人も両者とも,量刑判断には,認知判断・理性を司る脳部位とともに感情を司る脳部位の双方が法的判断(量刑判断)に関わっていることが脳神経科学的に明らかになる.

(2)他方,賦活部位の間の連結性について分析すると法専門家と法の素人の間の違いが見えてくる.

反省悔悟をしている被告人の量刑を,反省悔悟情報を与えられる前の量刑よりも減刑する判断をしているとき,すなわち情状酌量による減刑判断をしている際の脳の賦活部位を取り出してそれらの間の連結性を分析した模式図が下記である.



法の素人 法専門家

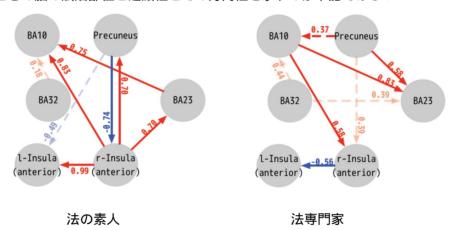
図の左側が法の素人の賦活部位間の連結性とその方向であり,右側が法専門家の賦活部位間の連結性とその方向性である.この図から明らかなように.賦活部位自体は同様の脳部位であるが,法専門家の方が,機能連結が少なくすっきりしている.

解釈としては,専門家は情状酌量の法理に基づいて判断,いわば慣れた判断をしているので,効率的に判断でき,機能連結が少なくて判断できている.これに対し,法の素人は,法に関わる知識がなく,量刑判断の経験も少ないので,判断において,試行錯誤を重ね,機能連結が論理的にあり得る全てで生じていると説明できる.

このように,専門家の方がその専門分野の判断で脳の賦活部位の連結性がシンプルであることは,従前の専門家についての脳研究とも一貫した結果である.

ここで注目に値するのは,認知コントロール・理性に関する前頭前野(BA32)と感情を司る島皮質の間に法の素人には双方向の連結性が見られるのに対し,法専門家には連結性が見られない点である.法専門家にとって慣れた判断の際には,感情の励起や理性の励起なく判断できているのに対し,法の素人は双方が強く励起され連結されているということである.

(3)反省悔悟を示していない被告人の量刑を,この情報を与えられる前よりも加重する判断をしているときの脳の賦活部位と連結性とその方向性を示すのが下記である.



図の左側が法の素人の賦活部位間の連結性とその方向であり,右側が法専門家の賦活部位間の連結性とその方向である。この図から明らかなように、法の素人の場合、量刑加重の判断の際に,右島皮質から前頭前野 BA10 へ向かう連結性が見られ,解釈すれば,感情が認知コントロール・理性をコントロールしていると言える.これに対し,法専門家の場合は,逆に,前頭前野 BA10から右島皮質へ向かう方向の連結性が見られ,解釈すれば,認知コントロールによって感情を制御しようとしていると言える.

また,右と左の島皮質の連結性に注目すると,法専門家では,島皮質内の機能連結が弱まっているのに対し,法の素人では,島皮質内の機能連結,具体的には右島皮質から左島皮質へ向かう連結が強まっている.これを解釈すれば,感情をつかさどる部位の活動が,法の素人の方が活発であることがわかる.

《参考文献》

Takeshi ASAMIZUYA, Hiroharu SAITO, Ryosuke HIGUCHI, Go NARUSE, Shozo OTA, & Junko KATO, "Effective Connectivity and Criminal Sentencing Decisions: Dynamic Causal Models in Laypersons and Legal Experts," *Cerebral Cortex*, bhab484, https://doi.org/10.1093/cercor/bhab484 (Jan. 18, 2022).

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計71件(うち査読付論文 49件/うち国際共著 26件/うちオープンアクセス 19件)

〔雑誌論文〕 計71件(うち査読付論文 49件/うち国際共著 26件/うちオープンアクセス 19件)	
1 . 著者名 太田勝造	4.巻 96.6
2 . 論文標題 裁判管轄合意・仲裁地合意の『地の利』評価が示唆するAI支援システムに対する人々の態度	5.発行年 2023年
3.雑誌名 法律論叢(明治大学)	6 . 最初と最後の頁 47-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	 査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1.著者名 太田勝造,青木玲子,西内康人,村松幹二,柳川範之	4.巻 209
2 . 論文標題 法と経済学の現在:定着と発展	5.発行年 2023年
3.雑誌名 法の支配	6.最初と最後の頁 6-38
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無無無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1 . 著者名 森下哲朗,安達祐介,太田勝造,小町谷育子, 山本和彦	4.巻 1579
2.論文標題 新技術と法の未来:司法と法務のデジタル化	5 . 発行年 2023年
3.雑誌名 ジュリスト	6.最初と最後の頁 60-75
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無無無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1 . 著者名 太田勝造	4.巻 236
2 . 論文標題 AI時代の法学	5 . 発行年 2022年
3.雑誌名 罪と罰	6.最初と最後の頁 50-52
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	 査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著

	<u> </u>
│ 1.著者名	4.巻
SAITO, Hiroharu	69
2	F 38/=/=
2.論文標題	5 . 発行年
Loss Aversion for the Value of Voting Rights: WTA/WTP Ratios for a Ballot	2022年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
International Review of Law and Economics	1-12
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
<i>'</i> & <i>O</i>	H H
1	
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	該当する
1 ***	4 . 巻
1.著者名	_
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH	46
2.論文標題	5.発行年
Toward a practical legal rule revision in legal debugging	2022年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Computer Law & Security Review	-
Computer Law & Cocurry Nevrew	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.1016/j.clsr.2022.105696	有
10.1010/ j.0101.2022.100000	F
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	該当する
	<u> </u>
1.著者名	4 . 巻
———————————————————————————————————————	_
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae	362
———————————————————————————————————————	_
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae	362
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2 . 論文標題	5 . 発行年
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae	362
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2 . 論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms	362 5.発行年 2022年
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2 . 論文標題	5 . 発行年
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2 . 論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms 3 . 雑誌名	362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2 . 論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms	362 5.発行年 2022年
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2 . 論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms 3 . 雑誌名	362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2 . 論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms 3 . 雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications	362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 182-187
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2 . 論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms 3 . 雑誌名	362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2 . 論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms 3 . 雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications	362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 182-187 査読の有無
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2. 論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms 3. 雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 182-187
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2. 論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms 3. 雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/FAIA220464	362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 182-187 査読の有無
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2. 論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms 3. 雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/FAIA220464 オープンアクセス	362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 182-187 査読の有無 有
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2. 論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms 3. 雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/FAIA220464	362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 182-187 査読の有無
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2. 論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms 3. 雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/FAIA220464 オープンアクセス	362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 182-187 査読の有無 有
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2. 論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms 3. 雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/FAIA220464 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 182-187 査読の有無 有 国際共著 該当する
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2. 論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms 3. 雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/FAIA220464 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 182-187 査読の有無 有 国際共著 該当する
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2. 論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms 3. 雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/FAIA220464 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 182-187 査読の有無 有 国際共著 該当する
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2.論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms 3.雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/FAIA220464 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 MGIYEN, Ha-Thanh, Wachara FUNGWACHARAKORN, NISHINO, Fumihito, SATOH, Ken	362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 182-187 査読の有無 有 国際共著 該当する
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2. 論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms 3. 雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/FAIA220464 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 182-187 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 362
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2. 論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms 3. 雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/FAIA220464 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 著者名 MGIYEN, Ha-Thanh, Wachara FUNGWACHARAKORN, NISHINO, Fumihito, SATOH, Ken 2. 論文標題	362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 182-187 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 362 5 . 発行年
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2.論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms 3.雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/FAIA220464 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 MGIYEN, Ha-Thanh, Wachara FUNGWACHARAKORN, NISHINO, Fumihito, SATOH, Ken	362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 182-187 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 362
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2.論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms 3.雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/FAIA220464 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 MGIYEN, Ha-Thanh, Wachara FUNGWACHARAKORN, NISHINO, Fumihito, SATOH, Ken 2.論文標題 A Multi-Step Approach in Translating Natural Language into Logical Formula	362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 182-187 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 362 5 . 発行年 2022年
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2. 論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms 3. 雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/FAIA220464 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 著者名 MGIYEN, Ha-Thanh, Wachara FUNGWACHARAKORN, NISHINO, Fumihito, SATOH, Ken 2. 論文標題	362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 182-187 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 362 5 . 発行年
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2. 論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms 3. 雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/FAIA220464 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 著者名 MGIYEN, Ha-Thanh, Wachara FUNGWACHARAKORN, NISHINO, Fumihito, SATOH, Ken 2. 論文標題 A Multi-Step Approach in Translating Natural Language into Logical Formula 3. 雑誌名	362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 182-187 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2. 論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms 3. 雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/FAIA220464 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 著者名 MGIYEN, Ha-Thanh, Wachara FUNGWACHARAKORN, NISHINO, Fumihito, SATOH, Ken 2. 論文標題 A Multi-Step Approach in Translating Natural Language into Logical Formula	362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 182-187 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 362 5 . 発行年 2022年
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2. 論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms 3. 雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/FAIA220464 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 著者名 MGIYEN, Ha-Thanh, Wachara FUNGWACHARAKORN, NISHINO, Fumihito, SATOH, Ken 2. 論文標題 A Multi-Step Approach in Translating Natural Language into Logical Formula 3. 雑誌名	362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 182-187 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2. 論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms 3. 雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/FAIA220464 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 著者名 MGIYEN, Ha-Thanh, Wachara FUNGWACHARAKORN, NISHINO, Fumihito, SATOH, Ken 2. 論文標題 A Multi-Step Approach in Translating Natural Language into Logical Formula 3. 雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications	362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 182-187 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 103-112
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2. 論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms 3. 雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/FAIA220464 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 著者名 MGIYEN, Ha-Thanh, Wachara FUNGWACHARAKORN, NISHINO, Fumihito, SATOH, Ken 2. 論文標題 A Multi-Step Approach in Translating Natural Language into Logical Formula 3. 雑誌名	362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 182-187 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2.論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms 3.雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/FAIA220464 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 MGIYEN, Ha-Thanh, Wachara FUNGWACHARAKORN, NISHINO, Fumihito, SATOH, Ken 2.論文標題 A Multi-Step Approach in Translating Natural Language into Logical Formula 3.雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 182-187 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 103-112
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2. 論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms 3. 雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/FAIA220464 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 著者名 MGIYEN, Ha-Thanh, Wachara FUNGWACHARAKORN, NISHINO, Fumihito, SATOH, Ken 2. 論文標題 A Multi-Step Approach in Translating Natural Language into Logical Formula 3. 雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications	362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 182-187 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 103-112
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2 . 論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms 3 . 雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/FAIA220464 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 MGIYEN, Ha-Thanh, Wachara FUNGWACHARAKORN, NISHINO, Fumihito, SATOH, Ken 2 . 論文標題 A Multi-Step Approach in Translating Natural Language into Logical Formula 3 . 雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/FAIA220453	362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 182-187 査読の有無 国際共著 該当する 4 . 巻 362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 103-112 査読の有無 有
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2. 論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms 3. 雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/FAIA220464 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 著者名 MGIYEN, Ha-Thanh, Wachara FUNGWACHARAKORN, NISHINO, Fumihito, SATOH, Ken 2. 論文標題 A Multi-Step Approach in Translating Natural Language into Logical Formula 3. 雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/FAIA220453 オープンアクセス	362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 182-187 査読の有無 国際共著 該当する 4 . 巻 362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 103-112 査読の有無 有
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae 2 . 論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms 3 . 雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/FAIA220464 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 MGIYEN, Ha-Thanh, Wachara FUNGWACHARAKORN, NISHINO, Fumihito, SATOH, Ken 2 . 論文標題 A Multi-Step Approach in Translating Natural Language into Logical Formula 3 . 雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/FAIA220453	362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 182-187 査読の有無 国際共著 該当する 4 . 巻 362 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 103-112 査読の有無 有

1.著者名	4.巻
米村滋人	92
a AAAATTET	- 7V (= t-
2 . 論文標題	5.発行年
感染症対策の不備と専門家の活用の失敗 : 日本のコロナ対策はなぜ欠陥だらけなのか	2021年
O 1844 77	C = 271 514 o =
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
科学	208-213
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
/ 4 U	///
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	4 . 巻
米村滋人	109
2 . 論文標題	5 . 発行年
新型コロナウイルス感染症に関する法制度	2021年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
診断と治療	1487-1492
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	木柱の左無
	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	
オープファクセスとはない、又はオープファクセスが凶無	-
1 . 著者名	4 . 巻
米村滋人	1559
/IVI J IAA / V	
2 . 論文標題	5.発行年
ゲノムデータの法規制に関する現状と課題	2021年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
ジュリスト	35-41
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国际六有
カープラックと人ではない。 人はカープラック とスカ 四無	
	4 . 巻
米村滋人	32
TI JIMA N	
2 . 論文標題	5.発行年
科学的判断と社会的意思決定 : 「行動変容」を求めたのは誰か	2021年
111 111 141 C LAXIMON/AC - 1130 X 1 C (1/47) C (1/41)	2021
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
憲法問題	117-128
reals and a present	25
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
	To the state of th
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-

1.著者名 米村滋人	
米村滋人	4 . 巻
· I · I J / mm · ·	39
2 *A-LEDE	5 78/= F
2 . 論文標題	5 . 発行年
法的・倫理的規制の全体構造と個人情報保護	2021年
72.5	
	6 PM P// 6 T
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
実験医学	1174-1178
7-9/E J	111111111111111111111111111111111111111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
オープンテクと人とはない、又はオープンテクと人が困難	<u> </u>
1.著者名	4 . 巻
	29
FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken	29
2 . 論文標題	5.発行年
Resolving counterintuitive consequences in law using legal debugging	2021年
2 사는 보선	6 早加レ県後の百
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Artificial Intelligence and Law	541 - 557
Č	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	▲ 査読の有無
10.1007/s10506-021-09283-7	有
10.1007/\$10300-021-03203-7	H
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている (また、その予定である)	該当する
a フフナノビベモひといる (また、との7/たとのる)	以口ょる
1.著者名	4.巻
	_
FUNDWA ONA DADAYODNI, Washing TONONNA WASHING	2021
FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken	2021
FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken	
2.論文標題	5.発行年
2.論文標題	5.発行年
2.論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning	5.発行年 2021年
2.論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning 3.雑誌名	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁
2.論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning	5.発行年 2021年
2 . 論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning 3 . 雑誌名	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁
2 . 論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning 3 . 雑誌名	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁
2 . 論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning 3 . 雑誌名 Proceedings of the Eighteenth International Conference on Artificial Intelligence and Law	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 50-59
2 . 論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning 3 . 雑誌名 Proceedings of the Eighteenth International Conference on Artificial Intelligence and Law	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁
2.論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning 3.雑誌名 Proceedings of the Eighteenth International Conference on Artificial Intelligence and Law 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 50-59
2 . 論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning 3 . 雑誌名 Proceedings of the Eighteenth International Conference on Artificial Intelligence and Law	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 50-59
2.論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning 3.雑誌名 Proceedings of the Eighteenth International Conference on Artificial Intelligence and Law 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1145/3462757.3466075	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 50-59 査読の有無 有
2.論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning 3.雑誌名 Proceedings of the Eighteenth International Conference on Artificial Intelligence and Law 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1145/3462757.3466075	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 50-59 査読の有無 有
2. 論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning 3. 雑誌名 Proceedings of the Eighteenth International Conference on Artificial Intelligence and Law 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 50-59 査読の有無 有
2.論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning 3.雑誌名 Proceedings of the Eighteenth International Conference on Artificial Intelligence and Law 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1145/3462757.3466075	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 50-59 査読の有無 有
2.論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning 3.雑誌名 Proceedings of the Eighteenth International Conference on Artificial Intelligence and Law 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 50-59 査読の有無 有
2.論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning 3.雑誌名 Proceedings of the Eighteenth International Conference on Artificial Intelligence and Law 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 50-59 査読の有無 有 国際共著 該当する
2.論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning 3.雑誌名 Proceedings of the Eighteenth International Conference on Artificial Intelligence and Law 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 50-59 査読の有無 有 国際共著 該当する
2.論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning 3.雑誌名 Proceedings of the Eighteenth International Conference on Artificial Intelligence and Law 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 50-59 査読の有無 有 国際共著 該当する
2.論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning 3.雑誌名 Proceedings of the Eighteenth International Conference on Artificial Intelligence and Law 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 50-59 査読の有無 有 国際共著 該当する
2.論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning 3.雑誌名 Proceedings of the Eighteenth International Conference on Artificial Intelligence and Law 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 50-59 査読の有無 有 国際共著 該当する
2.論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning 3.雑誌名 Proceedings of the Eighteenth International Conference on Artificial Intelligence and Law 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken 2.論文標題	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 50-59 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 40
2.論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning 3.雑誌名 Proceedings of the Eighteenth International Conference on Artificial Intelligence and Law 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 50-59 査読の有無 有 国際共著 該当する
2.論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning 3.雑誌名 Proceedings of the Eighteenth International Conference on Artificial Intelligence and Law 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken 2.論文標題	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 50-59 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 40
2.論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning 3.雑誌名 Proceedings of the Eighteenth International Conference on Artificial Intelligence and Law 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken 2.論文標題 Diagnosing and Treating Effect of Legal Rule-Based Revision	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 50-59 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 40 5 . 発行年 2022年
2.論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning 3.雑誌名 Proceedings of the Eighteenth International Conference on Artificial Intelligence and Law 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken 2.論文標題 Diagnosing and Treating Effect of Legal Rule-Based Revision 3.雑誌名	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 50-59 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 40 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁
2.論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning 3.雑誌名 Proceedings of the Eighteenth International Conference on Artificial Intelligence and Law 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken 2.論文標題 Diagnosing and Treating Effect of Legal Rule-Based Revision 3.雑誌名	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 50-59 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 40 5 . 発行年 2022年
2.論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning 3.雑誌名 Proceedings of the Eighteenth International Conference on Artificial Intelligence and Law 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken 2.論文標題 Diagnosing and Treating Effect of Legal Rule-Based Revision	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 50-59 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 40 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁
2.論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning 3.雑誌名 Proceedings of the Eighteenth International Conference on Artificial Intelligence and Law 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken 2.論文標題 Diagnosing and Treating Effect of Legal Rule-Based Revision 3.雑誌名	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 50-59 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 40 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁
2.論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning 3.雑誌名 Proceedings of the Eighteenth International Conference on Artificial Intelligence and Law 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken 2.論文標題 Diagnosing and Treating Effect of Legal Rule-Based Revision 3.雑誌名 Home New Generation Computing	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 50-59 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 40 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 25-45
2.論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning 3.雑誌名 Proceedings of the Eighteenth International Conference on Artificial Intelligence and Law 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken 2.論文標題 Diagnosing and Treating Effect of Legal Rule-Based Revision 3.雑誌名 Home New Generation Computing	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 50-59 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 40 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁
2.論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning 3.雑誌名 Proceedings of the Eighteenth International Conference on Artificial Intelligence and Law 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken 2.論文標題 Diagnosing and Treating Effect of Legal Rule-Based Revision 3.雑誌名 Home New Generation Computing	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 50-59 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 40 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 25-45
2.論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning 3.雑誌名 Proceedings of the Eighteenth International Conference on Artificial Intelligence and Law 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken 2.論文標題 Diagnosing and Treating Effect of Legal Rule-Based Revision 3.雑誌名 Home New Generation Computing	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 50-59 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 40 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 25-45
2. 論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning 3. 雑誌名 Proceedings of the Eighteenth International Conference on Artificial Intelligence and Law 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken 2. 論文標題 Diagnosing and Treating Effect of Legal Rule-Based Revision 3. 雑誌名 Home New Generation Computing 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00354-022-00157-3	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 50-59 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 40 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 25-45
2. 論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning 3. 雑誌名 Proceedings of the Eighteenth International Conference on Artificial Intelligence and Law 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken 2. 論文標題 Diagnosing and Treating Effect of Legal Rule-Based Revision 3. 雑誌名 Home New Generation Computing 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00354-022-00157-3	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 50-59 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 40 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 25-45 査読の有無 有
2. 論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning 3. 雑誌名 Proceedings of the Eighteenth International Conference on Artificial Intelligence and Law 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken 2. 論文標題 Diagnosing and Treating Effect of Legal Rule-Based Revision 3. 雑誌名 Home New Generation Computing	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 50-59 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 40 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 25-45

4	
1.著者名	4 . 巻
FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken	1357
, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
2 . 論文標題	5.発行年
On the Legal Revision in PROLEG Program	2021年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Advances in Intelligent Systems and Computing	25-26
Advances in interrigent systems and computing	25-20
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.1007/978-3-030-73113-7_3	有
10.1001/370 0 000 70110 7_0	"
+	
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	該当する
	•
1 . 著者名	4 . 巻
	_
太田勝造	807
2.論文標題	5.発行年
- 注解釈学の思考様式:リーガル・マインドを身につけよう!	
広暦杯子の 芯ち体式:リールル・マイノトを身にフげよつ!	2022年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
法学セミナー	33-38
	30-00
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
60	
+ = 1,75,5	国際共業
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名	4 . 巻
太田勝造	95
2.論文標題	5 . 発行年
	0000/5
裁判官轄会官・仲裁地会官の『地の制』評価か示唆するAI支援システムに対する人々の態度	I 2023年
裁判管轄合意・仲裁地合意の『地の利』評価が示唆するAI支援システムに対する人々の態度	2023年
	·
3.雑誌名	2023年 6.最初と最後の頁
	·
3.雑誌名	6 . 最初と最後の頁
3.雑誌名	6 . 最初と最後の頁
3.雑誌名 法律論叢	6.最初と最後の頁 47-71
3 . 雑誌名 法律論叢 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	6.最初と最後の頁 47-71 査読の有無
3.雑誌名 法律論叢	6.最初と最後の頁 47-71
3 . 雑誌名 法律論叢 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	6.最初と最後の頁 47-71 査読の有無
3 . 雑誌名 法律論叢 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	6.最初と最後の頁 47-71 査読の有無 有
3 . 雑誌名 法律論叢 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	6.最初と最後の頁 47-71 査読の有無
3 . 雑誌名 法律論叢 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし	6.最初と最後の頁 47-71 査読の有無 有
3 . 雑誌名 法律論叢 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	6.最初と最後の頁 47-71 査読の有無 有 国際共著
3 . 雑誌名 法律論叢 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	6.最初と最後の頁 47-71 査読の有無 有
3 . 雑誌名 法律論叢 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	6.最初と最後の頁 47-71 査読の有無 有 国際共著
3 . 雑誌名 法律論叢 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	6.最初と最後の頁 47-71 査読の有無 有 国際共著 -
3 . 雑誌名 法律論叢 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 太田勝造 , 新田克己	6.最初と最後の頁 47-71 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 97
3 . 雑誌名 法律論叢 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 太田勝造 , 新田克己	6.最初と最後の頁 47-71 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 97
3 . 雑誌名 法律論叢 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 太田勝造 , 新田克己	6.最初と最後の頁 47-71 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 97
3 . 雑誌名 法律論叢 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 太田勝造 , 新田克己	6.最初と最後の頁 47-71 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 97
3.雑誌名 法律論叢 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 太田勝造,新田克己 2.論文標題 AIの裁判への導入は『期待』と『不安』と:人工知能(AI)活用の現状と課題	6.最初と最後の頁 47-71 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 97 5.発行年 2022年
3.雑誌名 法律論叢 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 太田勝造,新田克己 2.論文標題 AIの裁判への導入は『期待』と『不安』と:人工知能(AI)活用の現状と課題 3.雑誌名	6.最初と最後の頁 47-71 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 97 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁
3.雑誌名 法律論叢 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 太田勝造,新田克己 2.論文標題 AIの裁判への導入は『期待』と『不安』と:人工知能(AI)活用の現状と課題	6.最初と最後の頁 47-71 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 97 5.発行年 2022年
3.雑誌名 法律論叢 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 太田勝造,新田克己 2.論文標題 AIの裁判への導入は『期待』と『不安』と:人工知能(AI)活用の現状と課題 3.雑誌名	6.最初と最後の頁 47-71 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 97 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁
3.雑誌名 法律論叢 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 太田勝造,新田克己 2.論文標題 AIの裁判への導入は『期待』と『不安』と:人工知能(AI)活用の現状と課題 3.雑誌名	6.最初と最後の頁 47-71 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 97 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁
3.雑誌名 法律論叢 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 太田勝造,新田克己 2.論文標題 AIの裁判への導入は『期待』と『不安』と:人工知能(AI)活用の現状と課題 3.雑誌名 NII Today	6.最初と最後の頁 47-71 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 97 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁 7-10
3.雑誌名 法律論叢 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 太田勝造,新田克己 2.論文標題 AIの裁判への導入は『期待』と『不安』と:人工知能(AI)活用の現状と課題 3.雑誌名 NII Today 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)	6.最初と最後の頁 47-71 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 97 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁 7-10
3.雑誌名 法律論叢 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 太田勝造,新田克己 2.論文標題 AIの裁判への導入は『期待』と『不安』と:人工知能(AI)活用の現状と課題 3.雑誌名 NII Today	6.最初と最後の頁 47-71 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 97 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁 7-10
3.雑誌名 法律論叢 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 太田勝造,新田克己 2.論文標題 AIの裁判への導入は『期待』と『不安』と:人工知能(AI)活用の現状と課題 3.雑誌名 NII Today 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし	6.最初と最後の頁 47-71 査読の有無 国際共著 - 4.巻 97 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁 7-10
3.雑誌名 法律論叢 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 太田勝造,新田克己 2.論文標題 AIの裁判への導入は『期待』と『不安』と:人工知能(AI)活用の現状と課題 3.雑誌名 NII Today 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)	6.最初と最後の頁 47-71 査読の有無 国際共著 - 4.巻 97 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁 7-10
3 . 雑誌名 法律論叢 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 太田勝造 , 新田克己 2 . 論文標題 AIの裁判への導入は『期待』と『不安』と:人工知能(AI)活用の現状と課題 3 . 雑誌名 NII Today 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	6.最初と最後の頁 47-71 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 97 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁 7-10
3 . 雑誌名 法律論叢 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 太田勝造,新田克己 2 . 論文標題 AIの裁判への導入は『期待』と『不安』と:人工知能(AI)活用の現状と課題 3 . 雑誌名 NII Today 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	6.最初と最後の頁 47-71 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 97 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁 7-10

1.著者名	4.巻
森下哲朗,安達祐介,太田勝造,小町谷育子 , 山本和彦	1579
林下百份,女连竹儿,太山盼色,小则百自丁, 山平和珍	1379
2.論文標題	5.発行年
新技術と法の未来:司法と法務のデジタル化	2023年
WINCH CAUSING. CIACLANDS 5 5 5 7 7 TO	2020 1
	6 B47 L B// 6 Z
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
ジュリスト	60-75
7 - 7 / 7	00 10
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
4.0	////
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	_
カープンテクに入てはない。 人はカープンテクに入が四年	
1.著者名	4 . 巻
太田勝造	236
쓰비m면	200
2 . 論文標題	5.発行年
A I 時代の法学	2022年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
罪と罰	50-52
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	木芸の左無
	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共 業
	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
	<u>'</u>
4 17 17	A 214
1.著者名	4 . 巻
SAITO, Hiroharu	106041
2 *__	- 7V/
2.論文標題	5.発行年
Loss Aversion for the Value of Voting Rights: WTA/WTP Ratios for a Ballot	00004
	1 2022年
5 5	2022年
	·
	2022年 6.最初と最後の頁
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
	·
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
3.雑誌名 International Review of Law and Economics	6 . 最初と最後の頁 1-12
3.雑誌名 International Review of Law and Economics	6.最初と最後の頁
3.雑誌名 International Review of Law and Economics 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	6 . 最初と最後の頁 1-12 査読の有無
3.雑誌名 International Review of Law and Economics	6 . 最初と最後の頁 1-12
3.雑誌名 International Review of Law and Economics 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	6 . 最初と最後の頁 1-12 査読の有無
3.雑誌名 International Review of Law and Economics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	6.最初と最後の頁 1-12 査読の有無 有
3.雑誌名 International Review of Law and Economics 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス	6.最初と最後の頁 1-12 査読の有無 有 国際共著
3.雑誌名 International Review of Law and Economics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	6.最初と最後の頁 1-12 査読の有無 有
3.雑誌名 International Review of Law and Economics 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス	6.最初と最後の頁 1-12 査読の有無 有 国際共著
3.雑誌名 International Review of Law and Economics 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	6.最初と最後の頁 1-12 査読の有無 有 国際共著 該当する
3.雑誌名 International Review of Law and Economics 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	6.最初と最後の頁 1-12 査読の有無 有 国際共著 該当する
3.雑誌名 International Review of Law and Economics 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	6.最初と最後の頁 1-12 査読の有無 有 国際共著 該当する
3.雑誌名 International Review of Law and Economics 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	6.最初と最後の頁 1-12 査読の有無 有 国際共著 該当する
3.雑誌名 International Review of Law and Economics 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH	6.最初と最後の頁 1-12 査読の有無 有 国際共著 該当する
3.雑誌名 International Review of Law and Economics 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH 2.論文標題	6.最初と最後の頁 1-12 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 46
3.雑誌名 International Review of Law and Economics 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH	6.最初と最後の頁 1-12 査読の有無 有 国際共著 該当する
3.雑誌名 International Review of Law and Economics 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH 2.論文標題	6.最初と最後の頁 1-12 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 46
3 . 雑誌名 International Review of Law and Economics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH 2 . 論文標題 Toward a practical legal rule revision in legal debugging	6.最初と最後の頁 1-12 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 46 5.発行年 2022年
3 . 雑誌名 International Review of Law and Economics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH 2 . 論文標題 Toward a practical legal rule revision in legal debugging 3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁 1-12 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 46
3 . 雑誌名 International Review of Law and Economics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH 2 . 論文標題 Toward a practical legal rule revision in legal debugging	6.最初と最後の頁 1-12 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 46 5.発行年 2022年
3 . 雑誌名 International Review of Law and Economics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH 2 . 論文標題 Toward a practical legal rule revision in legal debugging 3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁 1-12 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 46 5.発行年 2022年
3.雑誌名 International Review of Law and Economics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH 2.論文標題 Toward a practical legal rule revision in legal debugging 3.雑誌名	6.最初と最後の頁 1-12 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 46 5.発行年 2022年
3.雑誌名 International Review of Law and Economics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH 2.論文標題 Toward a practical legal rule revision in legal debugging 3.雑誌名 Computer Law & Security Review	6.最初と最後の頁 1-12 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 46 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁
3.雑誌名 International Review of Law and Economics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH 2.論文標題 Toward a practical legal rule revision in legal debugging 3.雑誌名 Computer Law & Security Review 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	6.最初と最後の頁 1-12 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 46 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁 -
3 . 雑誌名 International Review of Law and Economics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH 2 . 論文標題 Toward a practical legal rule revision in legal debugging 3 . 雑誌名 Computer Law & Security Review 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	6.最初と最後の頁 1-12 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 46 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁 -
3.雑誌名 International Review of Law and Economics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH 2.論文標題 Toward a practical legal rule revision in legal debugging 3.雑誌名 Computer Law & Security Review	6.最初と最後の頁 1-12 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 46 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁
3 . 雑誌名 International Review of Law and Economics 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH 2 . 論文標題 Toward a practical legal rule revision in legal debugging 3 . 雑誌名 Computer Law & Security Review 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1016/j.clsr.2022.105696	6.最初と最後の頁 1-12 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 46 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁 -
3 . 雑誌名 International Review of Law and Economics 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Wachara FUNGWACHARAKORN、Ken SATOH 2 . 論文標題 Toward a practical legal rule revision in legal debugging 3 . 雑誌名 Computer Law & Security Review 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1016/j.clsr.2022.105696 オープンアクセス	6.最初と最後の頁 1-12 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 46 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁 - 査読の有無 有
3 . 雑誌名 International Review of Law and Economics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH 2 . 論文標題 Toward a practical legal rule revision in legal debugging 3 . 雑誌名 Computer Law & Security Review 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	6.最初と最後の頁 1-12 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 46 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁 -

	. 11
1.著者名	4 . 巻
Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae	362
2.論文標題	5 . 発行年
Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms	2022年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Frontiers in Artificial Intelligence and Applications	182-187
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.3233/FAIA220464	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	該当する
1 . 著者名	4 . 巻
MGIYEN, Ha-Thanh, Wachara FUNGWACHARAKORN, NISHINO, Fumihito, SATOH, Ken	362
2.論文標題	5.発行年
A Multi-Step Approach in Translating Natural Language into Logical Formula	2022年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
Frontiers in Artificial Intelligence and Applications	103-112
掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)	
10.3233/FAIA220453	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	該当する
1.著者名	л ж
I.者省名 ASAMIZUYA, Takeshi, SAITO, Hiroharu, HIGUCHI, Ryosuke, NARUSE, Go, OTA, Shozo, & KATO, Junko	4.巻 32
2.論文標題	5 . 発行年
Effective Connectivity and Criminal Sentencing Decisions: Dynamic Causal Models in Laypersons and Legal Experts	2022年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Cerebral Cortex	4304-4316
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	 査読の有無
10.1093/cercor/bhab484	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	該当する
1 . 著者名	4 . 巻
松村良之,木下麻奈子,太田勝造	72
2. 論文標題	5 . 発行年
裁判員裁判と法の素朴理論:2020年調査に基づいて	2021年
3. 維誌名	6.最初と最後の頁
北大法学論集	563-608
掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)	
なし	有
	国際共著
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	

1.著者名	4 **
	4 . 巻
SAITO, Hiroharu	69
2 . 論文標題	5 . 発行年
Loss Aversion for the Value of Voting Rights: WTA/WTP Ratios for a Ballot	2022年
2000 Average for the variety of the	2022—
0. 1824.67	C Em L E/4 o E
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
International Review of Law and Economics	1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	該当する
1 John County (Nico John Charles	W1/0
. ##.6	
1.著者名	4 . 巻
FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken	29
2.論文標題	5.発行年
Resolving counterintuitive consequences in law using legal debugging	2021年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Artificial Intelligence and Law	541-557
ALTITICIAL INTETTIGENCE AND LAW	041-007
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.1007/s10506-021-09283-7	有
10.1007/310000 021 03203 7	l P
+ = 1\17.04-7	
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	該当する
	·
1 . 著者名	4 . 巻
	2021
FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken	2021
2.論文標題	5.発行年
On semantics-based minimal revision for legal reasoning	2021年
on committee based with man reviewed reasoning	2021
2 M++47	(見知し見後の苦
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
Proceedings of the Eighteenth International Conference on Artificial Intelligence and Law	50-59
- · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
担	本芸の左無
·	 査読の有無 _.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1145/3462757.3466075	直読の有無 有
·	有
10.1145/3462757.3466075	有
10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス	有国際共著
10.1145/3462757.3466075	有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	有国際共著
10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス	有国際共著
10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	有 国際共著 該当する 4.巻
10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	有 国際共著 該当する
10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken	有 国際共著 該当する 4.巻 1357
10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken 2 . 論文標題	有 国際共著 該当する 4.巻 1357 5.発行年
10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken	有 国際共著 該当する 4.巻 1357
10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken 2 . 論文標題	有 国際共著 該当する 4.巻 1357 5.発行年
10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken 2 . 論文標題 On the Legal Revision in PROLEG Program	有 国際共著 該当する 4 . 巻 1357 5 . 発行年 2021年
10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken 2 . 論文標題 On the Legal Revision in PROLEG Program 3 . 雑誌名	有 国際共著 該当する 4 . 巻 1357 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁
10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken 2 . 論文標題 On the Legal Revision in PROLEG Program	有 国際共著 該当する 4 . 巻 1357 5 . 発行年 2021年
10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken 2 . 論文標題 On the Legal Revision in PROLEG Program 3 . 雑誌名	有 国際共著 該当する 4 . 巻 1357 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁
10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken 2 . 論文標題 On the Legal Revision in PROLEG Program 3 . 雑誌名 Advances in Intelligent Systems and Computing	有 国際共著 該当する 4 . 巻 1357 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁
10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken 2 . 論文標題 On the Legal Revision in PROLEG Program 3 . 雑誌名 Advances in Intelligent Systems and Computing	有 国際共著 該当する 4 . 巻 1357 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 25-26
10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken 2 . 論文標題 On the Legal Revision in PROLEG Program 3 . 雑誌名 Advances in Intelligent Systems and Computing	有 国際共著 該当する 4 . 巻 1357 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 25-26
10.1145/3462757.3466075 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken 2 . 論文標題 On the Legal Revision in PROLEG Program 3 . 雑誌名 Advances in Intelligent Systems and Computing	有 国際共著 該当する 4 . 巻 1357 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 25-26
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken 2 . 論文標題 On the Legal Revision in PROLEG Program 3 . 雑誌名 Advances in Intelligent Systems and Computing 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-030-73113-7_3	有 国際共著 該当する 4 . 巻 1357 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 25-26 査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken 2 . 論文標題 On the Legal Revision in PROLEG Program 3 . 雑誌名 Advances in Intelligent Systems and Computing	有 国際共著 該当する 4 . 巻 1357 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 25-26
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken 2 . 論文標題 On the Legal Revision in PROLEG Program 3 . 雑誌名 Advances in Intelligent Systems and Computing 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1007/978-3-030-73113-7_3	有 国際共著 該当する 4 . 巻 1357 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 25-26 査読の有無 有

1.著者名	4 . 巻
FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken	40
2.論文標題	5.発行年
Diagnosing and Treating Effect of Legal Rule-Based Revision	2022年
braghtoning and froating Erroot of Logar Nato-basou Novision	2022—
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Home New Generation Computing	25-45
· -	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	
10.1007/s00354-022-00157-3	有
10.1007/500004-022-00137-3	F
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	該当する
1.著者名	4 . 巻
米村滋人	92
2.論文標題	5.発行年
2. 調え信題 感染症対策の不備と専門家の活用の失敗 : 日本のコロナ対策はなぜ欠陥だらけなのか	2021年
ふうきょうがく 二番では 1% グロコクイジ・ロネグコロンジをはならくほうこうなどご	2021—
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
科学	208-213
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	<u></u> 査読の有無
19単20001(プラダルオフシェット戦別士) なし	重硫の有無

オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名	4 . 巻
米村滋人	109
2.論文標題	5.発行年
・ 調え (2021年
新至コログライルス念未歴に関するAI的及(特末 新至コログライルス念未歴 互併に対象の境外)	20214
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
診断と治療	1487-1492
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	<u></u> 査読の有無
拘戦論又のDOT (デンタルオフシェクト戦別士) なし	重成の有無
'& ∪	***
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
. ***	
1.著者名	4.巻
米村滋人	1559
2.論文標題	5.発行年
2 · 調文標題 ゲノムデータの法規制に関する現状と課題 (特集 ゲノムデータの利活用と法の未来)	2021年
, , ム, , , , , , , , , , , , , , , , ,	2021—
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
ジュリスト	35-41
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	<u></u>
拘戦論又のDOI (デンタルオフシェクト戦別士) なし	重成の有無
<i>'</i> & <i>U</i>	
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-

4 7 7 7	A 44
1 . 著者名	4 . 巻
米村滋人	32
0 MA-1400	= 7V./= h=
2 . 論文標題	5 . 発行年
科学的判断と社会的意思決定 : 「行動変容」を求めたのは誰か (特集 コロナと憲法)	2021年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
憲法問題	117-128
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	4 . 巻
米村滋人	39
711 J Jack	
2.論文標題	5.発行年
法的・倫理的規制の全体構造と個人情報保護	2021年
/ムμリー 間が正明が明めま 仲仲足に 四八月秋 不暖	ZUZ I '
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
実験医学	1174-1178
相撃公立のハノブンカリナブン・カー禁ロフン	本誌の左仰
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	4.巻
ASAMIZUYA, Takeshi, SAITO, Hiroharu, HIGUCHI, Ryosuke, NARUSE, Go, OTA, Shozo, & KATO, Junko	bhab484
2.論文標題	5 . 発行年
Effective Connectivity and Criminal Sentencing Decisions: Dynamic Causal Models in Laypersons	2022年
and Legal Experts	
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Cerebral Cortex	1-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.1093/cercor/bhab484	有
	.5
オープンアクセス	国際共著
	該当する
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	該当する
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名	4 . 巻
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 太田勝造	4 .巻 1199
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 太田勝造 2 . 論文標題	4.巻 1199 5.発行年
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 太田勝造	4 .巻 1199
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 太田勝造 2 . 論文標題 相手方企業の組織内弁護士であった者を入所させた法律事務所の弁護士の訴訟行為を排除することの可否	4.巻 1199 5.発行年 2021年
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 太田勝造 2 . 論文標題 相手方企業の組織内弁護士であった者を入所させた法律事務所の弁護士の訴訟行為を排除することの可否 3 . 雑誌名	4 . 巻 1199 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 太田勝造 2 . 論文標題 相手方企業の組織内弁護士であった者を入所させた法律事務所の弁護士の訴訟行為を排除することの可否	4.巻 1199 5.発行年 2021年
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 太田勝造 2 . 論文標題 相手方企業の組織内弁護士であった者を入所させた法律事務所の弁護士の訴訟行為を排除することの可否 3 . 雑誌名	4 . 巻 1199 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 太田勝造 2 . 論文標題 相手方企業の組織内弁護士であった者を入所させた法律事務所の弁護士の訴訟行為を排除することの可否 3 . 雑誌名 NBL	4 . 巻 1199 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 60,65
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 太田勝造 2 . 論文標題 相手方企業の組織内弁護士であった者を入所させた法律事務所の弁護士の訴訟行為を排除することの可否 3 . 雑誌名 NBL 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	4 . 巻 1199 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 60,65 査読の有無
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 太田勝造 2 . 論文標題 相手方企業の組織内弁護士であった者を入所させた法律事務所の弁護士の訴訟行為を排除することの可否 3 . 雑誌名	4 . 巻 1199 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 60,65
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 太田勝造 2 . 論文標題 相手方企業の組織内弁護士であった者を入所させた法律事務所の弁護士の訴訟行為を排除することの可否 3 . 雑誌名 NBL 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	4 . 巻 1199 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 60,65 査読の有無 無
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 太田勝造 2 . 論文標題 相手方企業の組織内弁護士であった者を入所させた法律事務所の弁護士の訴訟行為を排除することの可否 3 . 雑誌名 NBL 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	4 . 巻 1199 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 60,65 査読の有無

│ 1 . 著者名	4 . 巻
太田勝造,松村良之,木下麻奈子	72
	5.発行年
裁判員裁判と法の素朴理論:2020年調査に基づいて	2021年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
北大法学論集	563,608
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名	4 . 巻
太田勝造	807
2. 論文標題	5.発行年
法解釈学の思考様式:リーガル・マインドを身につけよう!	2022年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
法学セミナー	33,38
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	4 . 巻
太田勝造	1
2 . 論文標題	5.発行年
司法書士の社会的使命:問題解決エクスパート	2020年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
司法書士法改正記念誌	39,52
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	重成の行無 無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
	1 A 44
1.著者名 浅水屋剛	4 . 巻 87
2.論文標題	5.発行年
法的問題の神経科学	2021年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
法社会学	28,39
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無 無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-

1.著者名	4 . 巻
加藤淳子	87
2.論文標題	5 . 発行年
社会的行動の脳神経科学基盤の解明における人文社会科学	2021年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
法社会学	40,51
ALAT	40,01
<u></u> 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	
し なし	無
1	
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
│ 1.著者名	4 . 巻
太田勝造	1
2.論文標題	5 . 発行年
2・ スパボ& 社会規範のインフォーマルな制裁の効果についての人々の評価	2019年
エムルはない・1 ノ ノ カー \	2010—
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
柏木他『日本とブラジルからみた比較法』	207, 235
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
「オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 著者名	4 券
1.著者名	4.巻
1.著者名 太田勝造	4 . 巻 92-1
太田勝造	92-1
本田勝造 2.論文標題	92-1
太田勝造	92-1
太田勝造 2 . 論文標題 基礎法研究者からみた「法と法学のエッセンス」	92-1 5.発行年 2020年
太田勝造 2 . 論文標題 基礎法研究者からみた「法と法学のエッセンス」 3 . 雑誌名	92-1 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁
太田勝造 2 . 論文標題 基礎法研究者からみた「法と法学のエッセンス」	92-1 5.発行年 2020年
太田勝造 2 . 論文標題 基礎法研究者からみた「法と法学のエッセンス」 3 . 雑誌名	92-1 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁
太田勝造 2.論文標題 基礎法研究者からみた「法と法学のエッセンス」 3.雑誌名 法律時報	92-1 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 16, 21
太田勝造 2 . 論文標題 基礎法研究者からみた「法と法学のエッセンス」 3 . 雑誌名	92-1 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁
太田勝造 2.論文標題 基礎法研究者からみた「法と法学のエッセンス」 3.雑誌名 法律時報	92-1 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 16, 21
太田勝造 2.論文標題 基礎法研究者からみた「法と法学のエッセンス」 3.雑誌名 法律時報 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	92-1 5. 発行年 2020年 6. 最初と最後の頁 16, 21 査読の有無
太田勝造 2. 論文標題 基礎法研究者からみた「法と法学のエッセンス」 3. 雑誌名 法律時報 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	92-1 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 16, 21 査読の有無
太田勝造 2.論文標題 基礎法研究者からみた「法と法学のエッセンス」 3.雑誌名 法律時報 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス	92-1 5. 発行年 2020年 6. 最初と最後の頁 16, 21 査読の有無
太田勝造 2.論文標題 基礎法研究者からみた「法と法学のエッセンス」 3.雑誌名 法律時報 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	92-1 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 16, 21 査読の有無
 太田勝造 2.論文標題 基礎法研究者からみた「法と法学のエッセンス」 3.雑誌名 法律時報 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 	92-1 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 16,21 査読の有無 有 国際共著
太田勝造 2.論文標題 基礎法研究者からみた「法と法学のエッセンス」 3.雑誌名 法律時報 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名	92-1 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 16,21 査読の有無 有 国際共著
 太田勝造 2.論文標題 基礎法研究者からみた「法と法学のエッセンス」 3.雑誌名 法律時報 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 	92-1 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 16,21 査読の有無 有 国際共著
太田勝造 2.論文標題 基礎法研究者からみた「法と法学のエッセンス」 3.雑誌名 法律時報 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 太田勝造	92-1 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 16,21 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 92-4/5
太田勝造 2. 論文標題 基礎法研究者からみた「法と法学のエッセンス」 3. 雑誌名 法律時報 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1. 著者名 太田勝造 2. 論文標題	92-1 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 16,21 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 92-4/5 5.発行年
 太田勝造 2 . 論文標題 基礎法研究者からみた「法と法学のエッセンス」 3 . 雑誌名 法律時報 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 太田勝造 2 . 論文標題 「被告人が犯人でないとしたならば合理的に説明することが極めて困難な間接事実」について:事実認 	92-1 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 16,21 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 92-4/5
太田勝造2.論文標題 基礎法研究者からみた「法と法学のエッセンス」3.雑誌名 法律時報掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なしオープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難1.著者名 太田勝造2.論文標題 「被告人が犯人でないとしたならば合理的に説明することが極めて困難な間接事実」について:事実認定・心証形成の合理的理論からの一考察	92-1 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 16,21 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 92-4/5 5.発行年 2020年
太田勝造	92-1 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 16,21 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 92-4/5 5.発行年
太田勝造	92-1 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 16,21 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 92-4/5 5.発行年 2020年
太田勝造2.論文標題 基礎法研究者からみた「法と法学のエッセンス」3.雑誌名 法律時報掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なしオープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難1.著者名 太田勝造2.論文標題 「被告人が犯人でないとしたならば合理的に説明することが極めて困難な間接事実」について:事実認定・心証形成の合理的理論からの一考察	92-1 5. 発行年 2020年 6. 最初と最後の頁 16, 21 査読の有無 有 国際共著 - 4. 巻 92-4/5 5. 発行年 2020年 6. 最初と最後の頁
太田勝造	92-1 5. 発行年 2020年 6. 最初と最後の頁 16, 21 査読の有無 有 国際共著 - 4. 巻 92-4/5 5. 発行年 2020年 6. 最初と最後の頁
太田勝造	92-1 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 16,21 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 92-4/5 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 37,63
太田勝造 2.論文標題基礎法研究者からみた「法と法学のエッセンス」 3.雑誌名法律時報 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名太田勝造 2.論文標題「被告人が犯人でないとしたならば合理的に説明することが極めて困難な間接事実」について:事実認定・心証形成の合理的理論からの一考察 3.雑誌名法律論叢(明治大学) 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	92-1 5. 発行年 2020年 6. 最初と最後の頁 16, 21 査読の有無 有 国際共著 - 4. 巻 92-4/5 5. 発行年 2020年 6. 最初と最後の頁 37, 63 査読の有無
太田勝造 2 . 論文標題 基礎法研究者からみた「法と法学のエッセンス」 3 . 雑誌名 法律時報	92-1 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 16,21 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 92-4/5 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 37,63
太田勝造 2 . 論文標題 基礎法研究者からみた「法と法学のエッセンス」 3 . 雑誌名 法律時報 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	92-1 5. 発行年 2020年 6. 最初と最後の頁 16, 21 査読の有無 有 国際共著 - 4. 巻 92-4/5 5. 発行年 2020年 6. 最初と最後の頁 37, 63 査読の有無 有
太田勝造 2.論文標題基礎法研究者からみた「法と法学のエッセンス」 3.雑誌名法律時報 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名太田勝造 2.論文標題「被告人が犯人でないとしたならば合理的に説明することが極めて困難な間接事実」について:事実認定・心証形成の合理的理論からの一考察 3.雑誌名法律論叢(明治大学) 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	92-1 5. 発行年 2020年 6. 最初と最後の頁 16, 21 査読の有無 有 国際共著 - 4. 巻 92-4/5 5. 発行年 2020年 6. 最初と最後の頁 37, 63 査読の有無

4 英女女	4 . 巻
1 . 著者名 大田勝造	4.含 72
《 人口勝足	12
2 - 50-4-1-151日	F 琴/二左
2. 論文標題	5.発行年
交渉重視の調停:私的自治と取引費用	2020年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
東調連会報	32, 49
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	_
	•
1. 著者名	4 . 巻
森大輔	148
***・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	140
2.論文標題	5 . 発行年
日本の死刑の抑止効果 3つの先行研究の計量分析の再検討	2020年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
熊本法学	416, 344
掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	
3 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
1.著者名	4.巻
	5
森大輔,高橋脩一	5
2	F 75/2/F
2. 論文標題	5 . 発行年
広告の打消し表示において文字の大きさはどれほど重要か? イン ターネットでのサーベイ実験による	寅 2020年
証	
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
法と社会研究	67, 93
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	
なし	査読の有無
	査読の有無 有
	有
オープンアクセス	
	有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	有
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名	有 国際共著 - 4.巻
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 佐藤健 , Vu D. Tran, Minh Le Nguyen	有 国際共著 - 4.巻 2019
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 佐藤健 , Vu D. Tran, Minh Le Nguyen 2 . 論文標題	有 国際共著 - 4.巻 2019 5.発行年
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 佐藤健 , Vu D. Tran, Minh Le Nguyen 2 . 論文標題 Building Legal Case Retrieval Systems with Lexical Matching and Summarization using A Pre-	有 国際共著 - 4.巻 2019
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 佐藤健 , Vu D. Tran, Minh Le Nguyen 2 . 論文標題 Building Legal Case Retrieval Systems with Lexical Matching and Summarization using A Pre-Trained Phrase Scoring Model	有 国際共著 - 4.巻 2019 5.発行年 2019年
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 佐藤健 , Vu D. Tran, Minh Le Nguyen 2 . 論文標題 Building Legal Case Retrieval Systems with Lexical Matching and Summarization using A Pre-Trained Phrase Scoring Model 3 . 雑誌名	有 国際共著 - 4.巻 2019 5.発行年
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 佐藤健 , Vu D. Tran, Minh Le Nguyen 2 . 論文標題 Building Legal Case Retrieval Systems with Lexical Matching and Summarization using A Pre-Trained Phrase Scoring Model	有 国際共著 - 4.巻 2019 5.発行年 2019年
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 佐藤健 , Vu D. Tran, Minh Le Nguyen 2 . 論文標題 Building Legal Case Retrieval Systems with Lexical Matching and Summarization using A Pre-Trained Phrase Scoring Model 3 . 雑誌名	有 国際共著 - 4 . 巻 2019 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 佐藤健 , Vu D. Tran, Minh Le Nguyen 2 . 論文標題 Building Legal Case Retrieval Systems with Lexical Matching and Summarization using A Pre-Trained Phrase Scoring Model 3 . 雑誌名 Proceedings of International Conference on Artificial Intelligence and Law	有 国際共著 - 4 . 巻 2019 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 佐藤健 , Vu D. Tran, Minh Le Nguyen 2 . 論文標題 Building Legal Case Retrieval Systems with Lexical Matching and Summarization using A Pre-Trained Phrase Scoring Model 3 . 雑誌名 Proceedings of International Conference on Artificial Intelligence and Law	有 国際共著 - 4 . 巻 2019 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 佐藤健 , Vu D. Tran, Minh Le Nguyen 2 . 論文標題 Building Legal Case Retrieval Systems with Lexical Matching and Summarization using A Pre-Trained Phrase Scoring Model 3 . 雑誌名 Proceedings of International Conference on Artificial Intelligence and Law	有 国際共著 - 4 . 巻 2019 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 275, 282
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 佐藤健 , Vu D. Tran, Minh Le Nguyen 2 . 論文標題 Building Legal Case Retrieval Systems with Lexical Matching and Summarization using A Pre-Trained Phrase Scoring Model 3 . 雑誌名 Proceedings of International Conference on Artificial Intelligence and Law	有 国際共著 - 4 . 巻 2019 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 275, 282
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 佐藤健 , Vu D. Tran, Minh Le Nguyen 2 . 論文標題 Building Legal Case Retrieval Systems with Lexical Matching and Summarization using A Pre-Trained Phrase Scoring Model 3 . 雑誌名 Proceedings of International Conference on Artificial Intelligence and Law 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	有 国際共著 - 4 . 巻 2019 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 275, 282 査読の有無
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 佐藤健 , Vu D. Tran, Minh Le Nguyen 2 . 論文標題 Building Legal Case Retrieval Systems with Lexical Matching and Summarization using A Pre-Trained Phrase Scoring Model 3 . 雑誌名 Proceedings of International Conference on Artificial Intelligence and Law	有 国際共著 - 4 . 巻 2019 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 275, 282

│ 1 . 著者名	4.巻
佐藤健 , Vu D. Tran, Minh Le Nguyen, Kiyoaki Shirai	2019
	F 整仁左
	5.発行年
An Approach of Rhetorical Status Recognition for Judgments in Court Documents using Deep	2019年
Learning Models	
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Proceedings of International Conference on Knowledge and Systems Engineering	1, 6
Proceedings of international conference on knowledge and Systems Engineering	1, 0
The state of the s	
掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	該当する
1.著者名	4 . 巻
藤田和也・岡田謙介	46
® 보기되는 그 비짜기	"
2 *0.2-135.03	5 38/- F
2.論文標題	5.発行年
主観確率を含んだ累積プロスペクト理論モデルの推定精度について	2019年
	6.最初と最後の頁
行動計量学	53,71
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
, 6 U	"
1	C Chy III ++
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
	·
1.著者名	4 . 巻
米村滋人	1
2.論文標題	5 . 発行年
第1章 医療情報と医事法の関わり	2019年
31 T EMPINEE FACINITY	2010
2. hbit d7	て 見知に見後の百
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
甲斐克則編『医事法講座9巻 医療情報と医事法』	3, 22
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	
なし	有
「オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	_
The state of the s	
a ###	4 24
1.著者名	4 . 巻
米村滋人	29
2 . 論文標題	5 . 発行年
	I .
ゲノム医学・医療の進展に向けた法的課題	2019年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
3 . 雑誌名	
	6.最初と最後の頁 153,159
3 . 雑誌名	
3.雑誌名 遺伝子医学	153, 159
3 . 雑誌名 遺伝子医学 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	153, 159 査読の有無
3.雑誌名 遺伝子医学	153, 159
3.雑誌名 遺伝子医学 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	153, 159 査読の有無
3 . 雑誌名 遺伝子医学 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	153, 159 査読の有無 有
3 . 雑誌名 遺伝子医学 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	153, 159 査読の有無
3 . 雑誌名 遺伝子医学 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	153, 159 査読の有無 有

1.著者名	4 . 巻
米村滋人	34
2.論文標題	5.発行年
医療情報に関する法制度上の課題	2019年
	20194
2 hbst-47	6 見知に見後の百
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
年報医事法学	117, 126
掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
「オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	_
3 227 CM CM MAN MAN STATE COMMENT	
1 *	4 . 巻
1 . 著者名	
米村滋人	83.4
- 44 / 1977	_ = ===================================
2.論文標題	5 . 発行年
医療行為に対する「同意」と親権 医療ネグレクトにおける法的対応を契機に	2020年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
法学(東北大学)	149, 185
723 (510073)	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	4 . 巻
太田勝造	14号
NA #32	-
	5 . 発行年
こ・調え物と 認知症高齢者への介護行動と法的判断:要介護者の遺族の評価と態度への影響	2018年
祕州征向暦有人の介護行動と法別が明明、安介護有の場所の計画と思えての影響	20104
2 1824-7	て、 目切し目後の声
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
法と実務	243-286
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	<u> </u>
1 #40	4 **
1.著者名	4.巻
Imai, Kosuke, and Zhichao Jiang	37巻20号
2.論文標題	5.発行年
A Sensitivity Analysis for Missing Outcomes Due to Truncation-by-Death under the Matched-Pairs	2018年
Design	<u> </u>
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Statistics in Medicine	2907-2922
Statistics in modernic	
<u></u> 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	
10.1002/sim.2995	有
 オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	該当する

	. "
1 . 著者名	4.巻
Fong, Christian, Chad Hazlett, and Kosuke Imai	Vol.12, No.1
2	F 整仁在
2 . 論文標題	5.発行年
Covariate Balancing Propensity Score for a Continuous Treatment: Application to the Efficacy of	2018年
Political Advertisements	
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Annals of Applied Statistics	156-177
	**** o + ##
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	同
	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	該当する
1 英名	1 4 2 2
1 . 著者名	4.巻
Fungwacharakorn, W., and Satoh, K.	2018
2.	F 384-7-
2 . 論文標題	5.発行年
On the Legal Debugging in PROLEG program", Proceedings of the 12th International Workshop on	2018年
Juris-Informatics	6 PW P P P P
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
JURISIN	4-15
日共公立のDOL/ごぶんリナゴバークし始回フト	大芸の左伽
易載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
t − プンアクセス	国際共革
	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	該当する
1.著者名	4 . 巻
—	4 . き 2018
avas-Loro, M., Satoh, K., and Rodriguez-Doncel, V.	- AUTO
, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	5.発行年
•	
2 .論文標題 ContractFrames: Bridging the gap between Natural Language and Logics in Contract Law	5 . 発行年 2018年
2.論文標題 ContractFrames: Bridging the gap between Natural Language and Logics in Contract Law 3.雑誌名	5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁
2 .論文標題 ContractFrames: Bridging the gap between Natural Language and Logics in Contract Law	5 . 発行年 2018年
2.論文標題 ContractFrames: Bridging the gap between Natural Language and Logics in Contract Law 3.雑誌名	5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁
2.論文標題 ContractFrames: Bridging the gap between Natural Language and Logics in Contract Law 3.雑誌名 Proceedings of the 12th International Workshop on Juris-Informatics	5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 71-84
2.論文標題 ContractFrames: Bridging the gap between Natural Language and Logics in Contract Law 3.雑誌名 Proceedings of the 12th International Workshop on Juris-Informatics	5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 71-84
2.論文標題 ContractFrames: Bridging the gap between Natural Language and Logics in Contract Law 3.雑誌名 Proceedings of the 12th International Workshop on Juris-Informatics	5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 71-84
2.論文標題 ContractFrames: Bridging the gap between Natural Language and Logics in Contract Law 3.雑誌名 Proceedings of the 12th International Workshop on Juris-Informatics	5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 71-84 査読の有無 有
2.論文標題 ContractFrames: Bridging the gap between Natural Language and Logics in Contract Law 3.雑誌名 Proceedings of the 12th International Workshop on Juris-Informatics 引載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 71-84
2.論文標題 ContractFrames: Bridging the gap between Natural Language and Logics in Contract Law 3.雑誌名 Proceedings of the 12th International Workshop on Juris-Informatics 引載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 71-84 査読の有無 有
2.論文標題 ContractFrames: Bridging the gap between Natural Language and Logics in Contract Law 3.雑誌名 Proceedings of the 12th International Workshop on Juris-Informatics 引載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 71-84 査読の有無 有 国際共著
2.論文標題 ContractFrames: Bridging the gap between Natural Language and Logics in Contract Law 3.雑誌名 Proceedings of the 12th International Workshop on Juris-Informatics 3載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 71-84 査読の有無 有 国際共著
2.論文標題 ContractFrames: Bridging the gap between Natural Language and Logics in Contract Law 3.雑誌名 Proceedings of the 12th International Workshop on Juris-Informatics 引載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 71-84 査読の有無 有 国際共著
2.論文標題 ContractFrames: Bridging the gap between Natural Language and Logics in Contract Law 3.雑誌名 Proceedings of the 12th International Workshop on Juris-Informatics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 Hiroharu Saito	5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 71-84 査読の有無 有 国際共著
2.論文標題 ContractFrames: Bridging the gap between Natural Language and Logics in Contract Law 3.雑誌名 Proceedings of the 12th International Workshop on Juris-Informatics 3載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 1ープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 2. 論文標題	5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 71-84 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 No.20 5 . 発行年
2.論文標題 ContractFrames: Bridging the gap between Natural Language and Logics in Contract Law 3.雑誌名 Proceedings of the 12th International Workshop on Juris-Informatics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 Hiroharu Saito	5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 71-84 査読の有無 有 国際共著
2.論文標題 ContractFrames: Bridging the gap between Natural Language and Logics in Contract Law 3.雑誌名 Proceedings of the 12th International Workshop on Juris-Informatics 3載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 Hiroharu Saito 2.論文標題 Japanese Divorce Lawyers: Their Success After Their Own Divorce	5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 71-84 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 No.20 5 . 発行年 2018年
2.論文標題 ContractFrames: Bridging the gap between Natural Language and Logics in Contract Law 3.雑誌名 Proceedings of the 12th International Workshop on Juris-Informatics 引載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 Hiroharu Saito 2.論文標題 Japanese Divorce Lawyers: Their Success After Their Own Divorce 3.雑誌名	5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 71-84 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 No.20 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁
2.論文標題 ContractFrames: Bridging the gap between Natural Language and Logics in Contract Law 3.雑誌名 Proceedings of the 12th International Workshop on Juris-Informatics 尋載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 Hiroharu Saito 2.論文標題 Japanese Divorce Lawyers: Their Success After Their Own Divorce	5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 71-84 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 No.20 5 . 発行年 2018年
2.論文標題 ContractFrames: Bridging the gap between Natural Language and Logics in Contract Law 3.雑誌名 Proceedings of the 12th International Workshop on Juris-Informatics 引載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 . 著者名 Hiroharu Saito 2.論文標題 Japanese Divorce Lawyers: Their Success After Their Own Divorce 3.雑誌名	5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 71-84 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 No.20 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁
2. 論文標題 ContractFrames: Bridging the gap between Natural Language and Logics in Contract Law 3. 雑誌名 Proceedings of the 12th International Workshop on Juris-Informatics 日載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1. 著者名 Hiroharu Saito 2. 論文標題 Japanese Divorce Lawyers: Their Success After Their Own Divorce 3. 雑誌名 Asian-Pacific Law & Policy Journal	5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 71-84 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 No.20 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 1-49
2. 論文標題 ContractFrames: Bridging the gap between Natural Language and Logics in Contract Law 3. 雑誌名 Proceedings of the 12th International Workshop on Juris-Informatics 『最歌論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1. 著者名 Hiroharu Saito 2. 論文標題 Japanese Divorce Lawyers: Their Success After Their Own Divorce 3. 雑誌名 Asian-Pacific Law & Policy Journal	5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 71-84 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 No.20 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 1-49
2. 論文標題 ContractFrames: Bridging the gap between Natural Language and Logics in Contract Law 3. 雑誌名 Proceedings of the 12th International Workshop on Juris-Informatics 日載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1. 著者名 Hiroharu Saito 2. 論文標題 Japanese Divorce Lawyers: Their Success After Their Own Divorce 3. 雑誌名 Asian-Pacific Law & Policy Journal	5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 71-84 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 No.20 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 1-49
2.論文標題 ContractFrames: Bridging the gap between Natural Language and Logics in Contract Law 3.雑誌名 Proceedings of the 12th International Workshop on Juris-Informatics 最大のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 Hiroharu Saito 2.論文標題 Japanese Divorce Lawyers: Their Success After Their Own Divorce 3.雑誌名 Asian-Pacific Law & Policy Journal	5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 71-84 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 No.20 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 1-49 査読の有無
2.論文標題 ContractFrames: Bridging the gap between Natural Language and Logics in Contract Law 3.雑誌名 Proceedings of the 12th International Workshop on Juris-Informatics 曷載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 Hiroharu Saito 2.論文標題 Japanese Divorce Lawyers: Their Success After Their Own Divorce 3.雑誌名 Asian-Pacific Law & Policy Journal	5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 71-84 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 No.20 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 1-49

1.著者名	4 . 巻
齋藤宙治	8号
NU TO PART AND	-
a AA-LERE	5 7V./- 67
2.論文標題	5 . 発行年
米国における対立解決教育の歴史的展開:第二期(変容期)	2018年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
法と教育	5-16
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	_
カープンプラで人ではない。人はカープンプラでこれが四条	

1.著者名	4 . 巻
岡田謙介	61号
3 *A-A-IEID	5 38/- F
2. 論文標題	5 . 発行年
ベイズファクターによる心理学的仮説・モデルの評価	2018年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
心理学評論	101-115
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.24602/sjpr.61.1_101	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	_
(((((((((((((((((((
1.著者名	4 . 巻
三浦麻子・岡田謙介・清水裕士	61号
2.論文標題	5.発行年
·····	
統計革命:Make statistics great again 特集号の刊行にあたって	2018年
3. 雑誌名	6 最初と最後の百
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
3 . 雑誌名 心理学評論	6.最初と最後の頁 1-2
** *** * *	
心理学評論	1-2
** *** * *	
心理学評論 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	1-2 査読の有無
心理学評論	1-2
心理学評論 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.24602/sjpr.61.1_1	1-2 査読の有無 無
心理学評論 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.24602/sjpr.61.1_1 オープンアクセス	1-2 査読の有無
心理学評論 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.24602/sjpr.61.1_1 オープンアクセス	1-2 査読の有無 無
心理学評論 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.24602/sjpr.61.1_1	1-2 査読の有無 無
心理学評論 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.24602/sjpr.61.1_1 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	1-2 査読の有無 無 国際共著
心理学評論 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24602/sjpr.61.1_1 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名	1-2 査読の有無 無 国際共著 -
心理学評論 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.24602/sjpr.61.1_1 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	1-2 査読の有無 無 国際共著
心理学評論掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24602/sjpr.61.1_1オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)1.著者名	1-2 査読の有無 無 国際共著 -
心理学評論 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.24602/sjpr.61.1_1 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 Daisuke Mori, Yasuhiro Ikeda	1-2 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 26(1)
心理学評論 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.24602/sjpr.61.1_1 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 Daisuke Mori, Yasuhiro Ikeda 2 . 論文標題	1-2 査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 26(1) 5.発行年
心理学評論 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.24602/sjpr.61.1_1 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 Daisuke Mori, Yasuhiro Ikeda 2 . 論文標題 The Effect of Decoupling Punitive Damages on Filing Lawsuits: Court Error Model of Meritless	1-2 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 26(1)
心理学評論 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.24602/sjpr.61.1_1 オープンアクセス	1-2 査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 26(1) 5.発行年 2019年
心理学評論 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.24602/sjpr.61.1_1 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 Daisuke Mori, Yasuhiro Ikeda 2 . 論文標題 The Effect of Decoupling Punitive Damages on Filing Lawsuits: Court Error Model of Meritless	1-2 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 26(1) 5 . 発行年
心理学評論 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.24602/sjpr.61.1_1 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 Daisuke Mori, Yasuhiro Ikeda 2 . 論文標題 The Effect of Decoupling Punitive Damages on Filing Lawsuits: Court Error Model of Meritless Lawsuits 3 . 雑誌名	1-2 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 26(1) 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
心理学評論 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.24602/sjpr.61.1_1 オープンアクセス	1-2 査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 26(1) 5.発行年 2019年
心理学評論 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.24602/sjpr.61.1_1 オープンアクセス	1-2 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 26(1) 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.24602/sjpr.61.1_1 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 Daisuke Mori, Yasuhiro Ikeda 2 . 論文標題 The Effect of Decoupling Punitive Damages on Filing Lawsuits: Court Error Model of Meritless Lawsuits 3 . 雑誌名 Supreme Court Economic Review	1-2 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 26(1) 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 印刷中
心理学評論 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.24602/sjpr.61.1_1 オープンアクセス	1-2 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 26(1) 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
心理学評論 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.24602/sjpr.61.1_1 オープンアクセス	1-2
掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.24602/sjpr.61.1_1 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 Daisuke Mori, Yasuhiro Ikeda 2 . 論文標題 The Effect of Decoupling Punitive Damages on Filing Lawsuits: Court Error Model of Meritless Lawsuits 3 . 雑誌名 Supreme Court Economic Review	1-2 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 26(1) 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 印刷中
根載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.24602/sjpr.61.1_1 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 Daisuke Mori, Yasuhiro Ikeda 2 . 論文標題 The Effect of Decoupling Punitive Damages on Filing Lawsuits: Court Error Model of Meritless Lawsuits 3 . 雑誌名 Supreme Court Economic Review 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	1-2
根載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.24602/sjpr.61.1_1 オープンアクセス	1-2 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 26(1) 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 印刷中 査読の有無 有
心理学評論 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.24602/sjpr.61.1_1 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 Daisuke Mori, Yasuhiro Ikeda 2 . 論文標題 The Effect of Decoupling Punitive Damages on Filing Lawsuits: Court Error Model of Meritless Lawsuits 3 . 雑誌名 Supreme Court Economic Review 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	1-2

1 . 著者名 - 森大輔	4.巻 141
2.論文標題	5 . 発行年
質的比較分析(QCA)のソフトの使用方法 fs/QCAとRのQCA・SetMethodsパッケージ(2)	2018年
東町に取りが(WAN)のフラーの原用がA 13/WON CHOWOM Setwellious (ファ フ (2)	2010-
2 14:1-47	6.最初と最後の頁
3.雑誌名	
熊本法学	388-348
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし しゅうしゅう しゅう	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	
オープンテクセスとはない、又はオープンテクセスが四共	-
. ***	1
1 . 著者名	4 . 巻
森大輔	458
2 . 論文標題	5.発行年
法と経済学のススメ 法の「意図せざる効果」の理論と実証	2018年
	20.0 (
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
法学教室	4-7
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	_
TO SERVICIONAL MANAGEMENT AND THE PARTY OF T	
1.著者名	4 . 巻
	_
森大輔	144
6 AAA-UEUE	- 3v./
2 . 論文標題	5.発行年
 2.論文標題 震災後の流言の伝播 「善意」と新しい情報媒体の影響の統計分析	5.発行年 2018年
	2018年
震災後の流言の伝播 「善意」と新しい情報媒体の影響の統計分析 3.雑誌名	2018年 6.最初と最後の頁
震災後の流言の伝播 「善意」と新しい情報媒体の影響の統計分析	2018年
震災後の流言の伝播 「善意」と新しい情報媒体の影響の統計分析 3.雑誌名	2018年 6.最初と最後の頁
震災後の流言の伝播 「善意」と新しい情報媒体の影響の統計分析 3.雑誌名 熊本法学	2018年 6 . 最初と最後の頁 354-292
震災後の流言の伝播 「善意」と新しい情報媒体の影響の統計分析 3.雑誌名 熊本法学 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	2018年 6.最初と最後の頁 354-292 査読の有無
震災後の流言の伝播 「善意」と新しい情報媒体の影響の統計分析 3.雑誌名 熊本法学	2018年 6 . 最初と最後の頁 354-292
震災後の流言の伝播 「善意」と新しい情報媒体の影響の統計分析 3.雑誌名 熊本法学 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	2018年 6.最初と最後の頁 354-292 査読の有無 有
震災後の流言の伝播 「善意」と新しい情報媒体の影響の統計分析 3.雑誌名 熊本法学 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	2018年 6.最初と最後の頁 354-292 査読の有無 有
震災後の流言の伝播 「善意」と新しい情報媒体の影響の統計分析 3.雑誌名 熊本法学 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	2018年 6.最初と最後の頁 354-292 査読の有無 有
震災後の流言の伝播 「善意」と新しい情報媒体の影響の統計分析 3.雑誌名 熊本法学 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	2018年 6.最初と最後の頁 354-292 査読の有無 有
震災後の流言の伝播 「善意」と新しい情報媒体の影響の統計分析 3 . 雑誌名 熊本法学 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 [学会発表] 計142件(うち招待講演 51件/うち国際学会 51件)	2018年 6.最初と最後の頁 354-292 査読の有無 有
震災後の流言の伝播 「善意」と新しい情報媒体の影響の統計分析 3.雑誌名 熊本法学 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	2018年 6.最初と最後の頁 354-292 査読の有無 有
震災後の流言の伝播 「善意」と新しい情報媒体の影響の統計分析 3.雑誌名 熊本法学 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 【学会発表】 計142件(うち招待講演 51件/うち国際学会 51件) 1.発表者名	2018年 6.最初と最後の頁 354-292 査読の有無 有
震災後の流言の伝播 「善意」と新しい情報媒体の影響の統計分析 3 . 雑誌名 熊本法学 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 [学会発表] 計142件(うち招待講演 51件/うち国際学会 51件)	2018年 6.最初と最後の頁 354-292 査読の有無 有
震災後の流言の伝播 「善意」と新しい情報媒体の影響の統計分析 3.雑誌名 熊本法学 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 【学会発表】 計142件(うち招待講演 51件/うち国際学会 51件) 1.発表者名	2018年 6.最初と最後の頁 354-292 査読の有無 有
震災後の流言の伝播 「善意」と新しい情報媒体の影響の統計分析 3.雑誌名 熊本法学 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 【学会発表】 計142件(うち招待講演 51件/うち国際学会 51件) 1.発表者名	2018年 6.最初と最後の頁 354-292 査読の有無 有
震災後の流言の伝播 「善意」と新しい情報媒体の影響の統計分析 3 . 雑誌名 熊本法学 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 [学会発表] 計142件(うち招待講演 51件/うち国際学会 51件) 1 . 発表者名 加藤淳子	2018年 6.最初と最後の頁 354-292 査読の有無 有
震災後の流言の伝播 「善意」と新しい情報媒体の影響の統計分析 3 . 雑誌名 熊本法学 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 [学会発表] 計142件(うち招待講演 51件/うち国際学会 51件) 1 . 発表者名 加藤淳子	2018年 6.最初と最後の頁 354-292 査読の有無 有
震災後の流言の伝播 「善意」と新しい情報媒体の影響の統計分析 3 . 雑誌名 熊本法学 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 [学会発表] 計142件(うち招待講演 51件/うち国際学会 51件) 1 . 発表者名 加藤淳子	2018年 6.最初と最後の頁 354-292 査読の有無 有
震災後の流言の伝播 「善意」と新しい情報媒体の影響の統計分析 3 . 雑誌名 熊本法学 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 [学会発表] 計142件(うち招待講演 51件/うち国際学会 51件) 1 . 発表者名 加藤淳子	2018年 6.最初と最後の頁 354-292 査読の有無 有
震災後の流言の伝播 「善意」と新しい情報媒体の影響の統計分析 3 . 雑誌名 熊本法学 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 [学会発表] 計142件(うち招待講演 51件/うち国際学会 51件) 1 . 発表者名 加藤淳子	2018年 6.最初と最後の頁 354-292 査読の有無 有
震災後の流言の伝播 「善意」と新しい情報媒体の影響の統計分析 3 . 雑誌名 熊本法学 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 【学会発表】 計142件(うち招待講演 51件/うち国際学会 51件) 1 . 発表者名 加藤淳子 2 . 発表標題 情動と決定 社会的行動の神経基盤の分析から	2018年 6.最初と最後の頁 354-292 査読の有無 有
震災後の流言の伝播 「善意」と新しい情報媒体の影響の統計分析 3 . 雑誌名 熊本法学 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 【学会発表】 計142件(うち招待講演 51件/うち国際学会 51件) 1 . 発表者名 加藤淳子 2 . 発表標題 情動と決定 社会的行動の神経基盤の分析から	2018年 6.最初と最後の頁 354-292 査読の有無 有
震災後の流言の伝播 「善意」と新しい情報媒体の影響の統計分析 3 . 雑誌名 熊本法学 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 【学会発表】 計142件(うち招待講演 51件/うち国際学会 51件) 1 . 発表者名 加藤淳子 2 . 発表標題 情動と決定 社会的行動の神経基盤の分析から	2018年 6.最初と最後の頁 354-292 査読の有無 有

4 . 発表年 2023年

1.発表者名
森大輔・村山眞維
2 . 発表標題
Structural Changes of the Legal Profession and Diversification of Legal Practice for Individual Clients in Japan: From
Professionalism to Consumerism
TOTOGOTOMATTOM TO CONSUMENTIAM
2
3.学会等名
法専門職国際シンポジウム(招待講演)(国際学会)
4. 発表年
2023年
1.発表者名
OTA, Shozo
on, side
2 . 発表標題
Al Assisted Court System: Structure and People's Attitude
3 . 学会等名
Asian Law & Society Association(国際学会)
4.発表年
2022年
2022-7-
1 改丰业存
1. 発表者名
太田勝造
2.発表標題
弁護士に対する基本イメージ
3.学会等名
日本法社会学会
HTWEATA
A 及主体
4. 発表年
2022年
1.発表者名
太田勝造
2 . 発表標題
Al-Assisted Court: Architecture and People's Attitude
Additional source and respire a nerridade
3 . 学会等名
Meiji University Law in Japan Program(招待講演)(国際学会)
4.発表年
2022年

1.発表者名
OTA, Shozo
0 7V + LEGE
2. 発表標題
How AI Should Assist Courts?: Fact-Finding, Legal Judgment, or Both?
2 24 A MT 17
3.学会等名
Global Meeting on Sociology of Law(国際学会)
4. 発表年
2022年
1. 発表者名
KATO, Junko, HIGUCHI, Ryosuke, NARUSE, Go, SAITO, Hiroharu, ASAMIZUYA, Takeshi, OTA, Shozo
2. 発表標題
Emotion and Reason in Sentencing Decision: A Neuroscientific Exploration of the Legal Mind
3. 学会等名
Asian Law Institute Meeting(招待講演)(国際学会)
4 . 発表年
2022年
1.発表者名
太田勝造
2. 発表標題
学際化の進む法と経済学
3 . 学会等名
日本法と経済学会(招待講演)
4 . 発表年
2022年
· ·
1 . 発表者名
太田勝造
2.発表標題
リーガル・マインドと模擬裁判員裁判
ノ /J/V N I ノ I 〜"大阪でルア*!只でルア*!
3.学会等名
法と言語学会研究集会(招待講演)
4.発表年
2022年

1. 発表者名
太田勝造
2.発表標題
3. 学会等名
専修大学法学研究所・裁判員経験者ネットワーク(招待講演)
a Natr
4 . 発表年 2022年
2022年
1.発表者名
太田勝造
ли <u>м</u> е
2. 発表標題
民事紛争処理における 事実と証拠について
3.学会等名
3.子云寺石 民事紛争処理研究基金シンポジウム(招待講演)
氏事制事処理研究を並びびかびがなく 行行神(度)
4.発表年
2022年
1.発表者名
太田勝造
2 X = 15 K
2 . 発表標題 リーガル・マインドと法教育:要件事実教育のその先
リーガル・マイノドと広教育、女性事実教育のての元
3.学会等名
PSIMコンソーシウム・法実務技能教育支援セミナー(招待講演)
4 . 発表年
2022年
1. 発表者名
加藤淳子
2.発表標題
リーガル・マインドの脳神経科学的探究
3.学会等名
日本法社会学会
4.発表年
4. 完衣牛 2022年
4V44 *

1.発表者名
ASAMIZUYA, Takeshi
2.発表標題
2 . 発表標題 Brain-Scientific Approach to the Legal Mind: In the Case of Criminal Sentencing
3.学会等名 Asian Law and Society Association (国際学会)
4 . 発表年 2022年
1.発表者名
浅水屋剛
2.発表標題
リスク下の決定におけるヒト脳の機能的連結(Functional connectivity of human brain in risk decisions)
3 . チ云寺日 ヒト脳イメージング研究会
 4.発表年
4 . 完衣中 2022年
1.発表者名 ASAMIZUYA, Takeshi
2.発表標題
Functional connectivity of human risk decisions: Cognitive control and systematic deviation from risk neutrality
eurosicence2022(国際学会)
4.発表年
2022年
1.発表者名
森大輔
2 英丰福度
2 . 発表標題 弁護士選択を左右する情報
—··· · · · · · · · · · · · · · · · · ·
3.学会等名
日本法社会学会
4 . 発表年
2022年

The state of the s
1.発表者名 森大輔
PADA NTIU
2.発表標題
転売に対する規範的態度についてのサーベイ実験
0 WAMA
3.学会等名 日本法社会学会
4 . 発表年 2022年
20224
1 . 発表者名
SAITO, Hiroharu
2.発表標題
Z . 光衣標題 Japanese Lawyers at Civil Court after the Expansion of Their Population
3 . 学会等名
Asian Law and Society Association(国際学会)
4.発表年
2022年
1.発表者名
票藤宙治
2.発表標題
オンライン実験ツールの使用感について
さまざまな実験手法を用いた不正や犯罪の研究ワークショップ
4 . 発表年 2022年
1.発表者名 - 大四勝海
太田勝造
2.発表標題
裁判支援AIシステムへの国民の受容可能性事実認定・法的当てはめ・判断支援
3.学会等名
人工知能学会
4.発表年
2021年

1.発表者名 太田勝造
2.発表標題 認知脳科学の成果は法実務を変える:マインドセットを裁判官型から解き放そう
3.学会等名 第二東京弁護士会仲裁センター(招待講演)
4 . 発表年 2021年
1.発表者名 SAITO, Hiroharu
2.発表標題 The Impact of Lawyer Fees on Lawyer Partisanship: The Reciprocity Norm May Matter
3.学会等名 Law & Society Association(国際学会)
4 . 発表年 2021年
1.発表者名 齋藤宙治
2 . 発表標題 選挙権の価値についての損失回避: 1票のWTA/WTP
3.学会等名 日本法と経済学会
4 . 発表年 2021年
1.発表者名 米村滋人
2.発表標題 専門的判断の法的ガバナンス
 3.学会等名 科学技術社会論学会(国際学会)
4 . 発表年 2021年

4 75 = 74.0
1.発表者名
森大輔
2. 発表標題
裁判にかかる費用や時間についての認識と裁判利用行動意図の関係 裁判未経験者と経験者の比較
3.学会等名
日本法社会学会
4 . 発表年
2021年
1.発表者名
米村滋人
2 . 発表標題
人格権とパブリシティ権の法的性質 民法の立場から
2
3.学会等名
著作権法学会
4.発表年
2021年
LVL17
1.発表者名
米村滋人
2.発表標題
プライバシー・個人情報保護規制と医療情報の利用
3 . 学会等名
日本看護倫理学会
4.発表年
2021年
4 N±+20
1.発表者名
野村友和,森大輔,武田芳樹
2 . 発表標題
日本の犯罪の増減に影響を与える要因の部道府県パネルデータ分析を中心に
2. 半人笠々
3.学会等名
日本法と経済学会
4.発表年
2020年

1. 発表者名
太田勝造
」というでは 大的支援システムに基づく裁判は人々に受け容れられるか?
ALIXADO AN AIRES (MAJIOAN) INCIDENCE I
3.学会等名
日本法社会学会
4.発表年
2020年
. 7/
1. 発表者名
OTA, Shozo
AI-Assisted Court and Fact-Finding: People's Expectation and Concern
The restrict state and take the respect of Experiences and solices.
3.学会等名
Law and Society Association(国際学会)
4. 発表年
2020年
1.発表者名
1.発表者名 OTA, Shozo
OTA, Shozo
OTA, Shozo 2.発表標題
OTA, Shozo
OTA, Shozo 2.発表標題
OTA, Shozo 2 . 発表標題 Al Assisted Court System: Structure and People's Attitude
OTA, Shozo 2 . 発表標題 Al Assisted Court System: Structure and People's Attitude 3 . 学会等名
OTA, Shozo 2 . 発表標題 Al Assisted Court System: Structure and People's Attitude
OTA, Shozo 2.発表標題 Al Assisted Court System: Structure and People's Attitude 3.学会等名 Asian Law & Society Association (国際学会)
OTA, Shozo 2.発表標題 Al Assisted Court System: Structure and People's Attitude 3.学会等名 Asian Law & Society Association(国際学会) 4.発表年
OTA, Shozo 2.発表標題 Al Assisted Court System: Structure and People's Attitude 3.学会等名 Asian Law & Society Association (国際学会)
OTA, Shozo 2 . 発表標題 Al Assisted Court System: Structure and People's Attitude 3 . 学会等名 Asian Law & Society Association (国際学会) 4 . 発表年 2022年
OTA, Shozo 2 . 発表標題 Al Assisted Court System: Structure and People's Attitude 3 . 学会等名 Asian Law & Society Association (国際学会) 4 . 発表年 2022年
OTA, Shozo 2 . 発表標題 Al Assisted Court System: Structure and People's Attitude 3 . 学会等名 Asian Law & Society Association (国際学会) 4 . 発表年 2022年
OTA, Shozo 2 . 発表標題 Al Assisted Court System: Structure and People's Attitude 3 . 学会等名 Asian Law & Society Association (国際学会) 4 . 発表年 2022年
OTA, Shozo 2 . 発表標題 Al Assisted Court System: Structure and People's Attitude 3 . 学会等名 Asian Law & Society Association (国際学会) 4 . 発表年 2022年
OTA, Shozo 2. 発表標題 Al Assisted Court System: Structure and People's Attitude 3. 学会等名 Asian Law & Society Association (国際学会) 4. 発表年 2022年 1. 発表者名 太田勝造
OTA, Shozo 2 . 発表標題 Al Assisted Court System: Structure and People's Attitude 3 . 学会等名 Asian Law & Society Association (国際学会) 4 . 発表年 2022年
OTA, Shozo 2. 発表標題 Al Assisted Court System: Structure and People's Attitude 3. 学会等名 Asian Law & Society Association (国際学会) 4. 発表年 2022年 1. 発表者名 太田勝造
OTA, Shozo 2. 発表標題 Al Assisted Court System: Structure and People's Attitude 3. 学会等名 Asian Law & Society Association (国際学会) 4. 発表年 2022年 1. 発表者名 太田勝造
OTA, Shozo 2. 発表標題 Al Assisted Court System: Structure and People's Attitude 3. 学会等名 Asian Law & Society Association (国際学会) 4. 発表年 2022年 1. 発表者名 太田勝造 2. 発表標題 弁護士に対する基本イメージ
OTA, Shozo 2 . 発表標題 Al Assisted Court System: Structure and People's Attitude 3 . 学会等名 Asian Law & Society Association (国際学会) 4 . 発表年 2022年 1 . 発表者名 太田勝造 2 . 発表標題 弁護士に対する基本イメージ 3 . 学会等名
OTA, Shozo 2. 発表標題 Al Assisted Court System: Structure and People's Attitude 3. 学会等名 Asian Law & Society Association (国際学会) 4. 発表年 2022年 1. 発表者名 太田勝造 2. 発表標題 弁護士に対する基本イメージ
OTA, Shozo 2 . 発表標題 Al Assisted Court System: Structure and People's Attitude 3 . 学会等名 Asian Law & Society Association (国際学会) 4 . 発表年 2022年 1 . 発表者名 太田勝造 2 . 発表標題 弁護士に対する基本イメージ 3 . 学会等名 日本法社会学会
OTA, Shozo 2 . 発表標題 Al Assisted Court System: Structure and People's Attitude 3 . 学会等名 Asian Law & Society Association (国際学会) 4 . 発表年 2022年 1 . 発表者名 太田勝造 2 . 発表標題 弁護士に対する基本イメージ 3 . 学会等名 日本法社会学会 4 . 発表年
OTA, Shozo 2 . 発表標題 Al Assisted Court System: Structure and People's Attitude 3 . 学会等名 Asian Law & Society Association (国際学会) 4 . 発表年 2022年 1 . 発表者名 太田勝造 2 . 発表標題 弁護士に対する基本イメージ 3 . 学会等名 日本法社会学会
OTA, Shozo 2 . 発表標題 Al Assisted Court System: Structure and People's Attitude 3 . 学会等名 Asian Law & Society Association (国際学会) 4 . 発表年 2022年 1 . 発表者名 太田勝造 2 . 発表標題 弁護士に対する基本イメージ 3 . 学会等名 日本法社会学会 4 . 発表年

1. 発表者名
太田勝造
2.発表標題
Al-Assisted Court: Architecture and People's Attitude
3 . 学会等名
Meiji University Law in Japan Program(招待講演)(国際学会)
4.発表年 2022年
20224
1.発表者名
OTA, Shozo
2 . 発表標題
2 : সংবাদ্ধর How AI Should Assist Courts?: Fact-Finding, Legal Judgment, or Both?
How At Glourd Assist Courts: Fact Thinning, Logar Sudgmont, or both:
a. W.A. Maria
3.学会等名
Global Meeting on Sociology of Law(国際学会)
4.発表年
2022年
1.発表者名
KATO, Junko, HIGUCHI, Ryosuke, NARUSE, Go, SAITO, Hiroharu, ASAMIZUYA, Takeshi, OTA, Shozo
2 . 発表標題
2 . 発表標題 Emotion and Reason in Sentencing Decision: A Neuroscientific Exploration of the Legal Mind
2. 発表標題 Emotion and Reason in Sentencing Decision: A Neuroscientific Exploration of the Legal Mind
Emotion and Reason in Sentencing Decision: A Neuroscientific Exploration of the Legal Mind
Emotion and Reason in Sentencing Decision: A Neuroscientific Exploration of the Legal Mind 3 . 学会等名
Emotion and Reason in Sentencing Decision: A Neuroscientific Exploration of the Legal Mind
Emotion and Reason in Sentencing Decision: A Neuroscientific Exploration of the Legal Mind 3 . 学会等名 Asian Law Institute Meeting (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年
Emotion and Reason in Sentencing Decision: A Neuroscientific Exploration of the Legal Mind 3 . 学会等名 Asian Law Institute Meeting (招待講演) (国際学会)
Emotion and Reason in Sentencing Decision: A Neuroscientific Exploration of the Legal Mind 3 . 学会等名 Asian Law Institute Meeting (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2022年
Emotion and Reason in Sentencing Decision: A Neuroscientific Exploration of the Legal Mind 3 . 学会等名 Asian Law Institute Meeting (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2022年
Emotion and Reason in Sentencing Decision: A Neuroscientific Exploration of the Legal Mind 3 . 学会等名 Asian Law Institute Meeting (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2022年
Emotion and Reason in Sentencing Decision: A Neuroscientific Exploration of the Legal Mind 3 . 学会等名 Asian Law Institute Meeting (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2022年
Emotion and Reason in Sentencing Decision: A Neuroscientific Exploration of the Legal Mind 3 . 学会等名 Asian Law Institute Meeting (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2022年
Emotion and Reason in Sentencing Decision: A Neuroscientific Exploration of the Legal Mind 3 . 学会等名 Asian Law Institute Meeting (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2022年 1 . 発表者名 太田勝造
Emotion and Reason in Sentencing Decision: A Neuroscientific Exploration of the Legal Mind 3 . 学会等名 Asian Law Institute Meeting (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2022年 1 . 発表者名 太田勝造
Emotion and Reason in Sentencing Decision: A Neuroscientific Exploration of the Legal Mind 3 . 学会等名 Asian Law Institute Meeting (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2022年 1 . 発表者名 太田勝造
Emotion and Reason in Sentencing Decision: A Neuroscientific Exploration of the Legal Mind 3 . 学会等名 Asian Law Institute Meeting (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2022年 1 . 発表者名 太田勝造
Emotion and Reason in Sentencing Decision: A Neuroscientific Exploration of the Legal Mind 3 . 学会等名 Asian Law Institute Meeting (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2022年 1 . 発表者名 太田勝造 2 . 発表標題 学際化の進む法と経済学
Emotion and Reason in Sentencing Decision: A Neuroscientific Exploration of the Legal Mind 3 . 学会等名 Asian Law Institute Meeting (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2022年 1 . 発表者名 太田勝造 2 . 発表標題 学際化の進む法と経済学 3 . 学会等名
Emotion and Reason in Sentencing Decision: A Neuroscientific Exploration of the Legal Mind 3 . 学会等名 Asian Law Institute Meeting (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2022年 1 . 発表者名 太田勝造 2 . 発表標題 学際化の進む法と経済学 3 . 学会等名 日本法と経済学会 (招待講演)
Emotion and Reason in Sentencing Decision: A Neuroscientific Exploration of the Legal Mind 3 . 学会等名 Asian Law Institute Meeting (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2022年 1 . 発表者名 太田勝造 2 . 発表標題 学際化の進む法と経済学 3 . 学会等名 日本法と経済学会(招待講演)
Emotion and Reason in Sentencing Decision: A Neuroscientific Exploration of the Legal Mind 3 . 学会等名 Asian Law Institute Meeting (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2022年 1 . 発表者名 太田勝造 2 . 発表標題 学際化の進む法と経済学 3 . 学会等名 日本法と経済学会 (招待講演)
Emotion and Reason in Sentencing Decision: A Neuroscientific Exploration of the Legal Mind 3 . 学会等名 Asian Law Institute Meeting (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2022年 1 . 発表者名 太田勝造 2 . 発表標題 学際化の進む法と経済学 3 . 学会等名 日本法と経済学会(招待講演)

4 75 = 3.4
1 . 発表者名 太田勝造
《八山防 造
2 . 発表標題
リーガル・マインドと 模擬裁判員裁判
3.学会等名
3・チスラロ 法と言語学会(招待講演)
4 . 発表年
2022年
1.発表者名
太田勝造
2. 発表標題
裁判員制度シンポジウム:18歳で裁判員!?
3 . 学会等名
専修大学法学研究所・裁判員経験者ネットワーク(招待講演)
4.発表年
2022年
1.発表者名
太田勝造
2.発表標題
と、元代標度 民事紛争処理における 事実と証拠について
いずめずたなにのける。学文と歴史にフィーに
3 . 学会等名
民事紛争処理研究基金シンポジウム(招待講演)
4 . 発表年
2022年
1
1.発表者名 - 大四勝浩
太田勝造
2 . 発表標題
リーガル・マインドと法教育:要件事実教育のその先
2
3.学会等名 PSMコンバーシウム・注字数は能数套支援セミナー(切待護演)
PSIMコンソーシウム・法実務技能教育支援セミナー(招待講演)
4.発表年
2022年

1.発表者名
2.発表標題
フェルス保超 リーガル・マインドの脳神経科学的探究
2 7077 (1 2 1 978411 MET 1 3 H39NV0
3 . 子云寺台 日本法社会学会
4.発表年
2022年
1.発表者名
加藤淳子
2 . 発表標題
情動と決定 社会的行動の神経基盤の分析から
情報情動学シンポジウム(招待講演)
4. 発表年
2023年
1.発表者名
ASAMIZUYA, Takeshi
Normitzerit, Tukosii
2. 発表標題 Brain-Scientific Approach to the Legal Mind: In the Case of Criminal Sentencing
brain-screntific Approach to the Legal wind. In the case of criminal sentencing
3.学会等名
Asian Law and Society Association(国際学会)
4.発表年
2022年
1.発表者名
浅水屋剛
リスク下の決定におけるヒト脳の機能的連結(Functional connectivity of human brain in risk decisions)
3・チムサロ ヒト脳イメージング研究会
4.発表年
2022年

1.発表者名
ASAMIZUYA, Takeshi
2.発表標題
Functional connectivity of human risk decisions: Cognitive control and systematic deviation from risk neutrality
runctional connectivity of number risk decisions. Cognitive control and systematic deviation from risk neutrality
3 . 学会等名
Neurosicence2022(国際学会)
4 . 発表年
2022年
2022+
1.発表者名
森大輔・村山眞維
2.発表標題
Structural Changes of the Legal Profession and Diversification of Legal Practice for Individual Clients in Japan: From
Professionalism to Consumerism
3.学会等名
法専門職国際シンポジウム(招待講演)(国際学会)
4 . 発表年
2023年
2023年
1.発表者名
森大輔
2.発表標題
弁護士選択を左右する情報
3.学会等名
日本法社会学会
HTMLATA
A TV II C
4. 発表年
2022年
1.発表者名
森大輔
ホ ホノンキ世
N. A. S. T. T. T.
2.発表標題
転売に対する規範的態度についてのサーベイ実験
3.学会等名
日本法社会学会
. Web In
4. 発表年
2022年

1.発表者名 森大輔
2.発表標題マスク着用や飲食店の新型コロナ対策に対する人々の意識調査
3.学会等名 実践社会科学研究会
4 . 発表年 2022年
1 . 発表者名 SAITO, Hiroharu
2 . 発表標題 Japanese Lawyers at Civil Court after the Expansion of Their Population
3 . 学会等名 Asian Law and Society Association(国際学会)
4 . 発表年 2022年
1.発表者名 齋藤宙治
2 . 発表標題 オンライン実験ツールの使用感について
3 . 学会等名 さまざまな実験手法を用いた不正や犯罪の研究ワークショップ
4 . 発表年 2022年
1.発表者名 OTA, Shozo
2 . 発表標題 Current Trends and Challenges in the Study of Law and Society in Japan
3 . 学会等名 Asian Law & Society Association(招待講演)(国際学会)
4 . 発表年 2021年

1.発表者名 太田勝造
2 . 発表標題 研究の国際化の意義・方法・課題
3.学会等名 日本法社会学会(招待講演)
4 . 発表年 2021年
1.発表者名 太田勝造
2 . 発表標題 リーガル・マインドの脳科学
3.学会等名 日本法社会学会(招待講演)
4 . 発表年 2021年
1.発表者名 OTA, Shozo
2 . 発表標題 People's Attitude toward AI Court: How and To What Extent Should AI Assist the Judges?
3 . 学会等名 Law and Society Association
4.発表年
2021年
2021年 1 . 発表者名 OTA, Shozo
1.発表者名
1.発表者名 OTA, Shozo 2.発表標題 Case Settlement by Judicial Mediation From Law and Behavioral Economics Perspectives 3.学会等名 Mongolian Law and Economics Association (招待講演) (国際学会)
1 . 発表者名 OTA, Shozo 2 . 発表標題 Case Settlement by Judicial Mediation From Law and Behavioral Economics Perspectives 3 . 学会等名

1.発表者名
OTA, Shozo
2.発表標題
Scientific Methods for Legal Studies: Brain Science, Cognitive Science, and Field Experiment
defentive wethous for Edgar Studies. Brain Serence, Sugnitive Serence, and Fred Experiment
W. 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
3 . 学会等名
Asian Law and Economics Association(招待講演)(国際学会)
4 . 発表年
2021年
202. 1
1.発表者名
太田勝造
2 . 発表標題
裁判支援AIシステムへの国民の受容可能性事実認定・法的当てはめ・判断支援
3 . 学会等名
人工知能学会全国大会
. 70 40 40
4 . 発表年
2021年
1.発表者名
太田勝造
o TV-T-TETE
2 . 発表標題
認知脳科学の成果は法実務を変える:マインドセットを裁判官型から解き放そう
3.学会等名
第二東京弁護士会仲裁センター(招待講演)
AND
/ 双 丰年
4. 発表年 2004年
2021年
1.発表者名
太田勝造
2 . 発表標題
『AI裁判』に対する人々の受け止め方:経験科学的な法社会学研究の試み
ハエでもつき にんょう ひハくく ひえい エジノ・ たっぱいて はない アレン 日本の アレン 日本のア
3
3. 学会等名
明治大学法学研究会(招待講演)
4 . 発表年
2021年
·

1.発表者名 齋藤宙治
2.発表標題 日米の司法判断から見るEBPM
3.学会等名 日本公共政策学会
4 . 発表年 2021年
1.発表者名 SAITO, Hiroharu
2.発表標題 The Impact of Lawyer Fees on Lawyer Partisanship: The Reciprocity Norm May Matter
3.学会等名 Law and Society Association
4 . 発表年 2021年
1.発表者名 米村滋人
2.発表標題 人格権とパブリシティ権の法的性質 民法の立場から
3.学会等名 著作権法学会
4 . 発表年 2021年
1.発表者名 米村滋人
2.発表標題 プライバシー・個人情報保護規制と医療情報の利用
3.学会等名 日本看護倫理学会
4.発表年 2021年

1.発表者名
米村滋人
2 . 発表標題 ゲノム社会の未来を実現するための法的・倫理的課題とは
プラム社会の未未を実現するための法的・神理的誅越とは
3 . デムサロ 生命医薬情報学連合大会・日本バイオインフォマティクス学会・ 日本オミックス医学会
4 . 発表年 2021年
·
1.発表者名
米村滋人
2 改丰福度
2 . 発表標題 専門的判断の法的ガバナンス
71 3H37 3H1 27 MH372 / 72 / 73
3.学会等名
科学技術社会論学会
2021年
1.発表者名 野村友和,森大輔,武田芳樹
」 野们 久们,林入翈,此四万個 │
日本の犯罪の増減に影響を与える要因の盗の都道府県パネルデータ分析を中心に
3 . 学会等名
日本法と経済学会
4.発表年
2021年
1 改丰之夕
1 . 発表者名 森大輔
AND ALID
2.発表標題
裁判にかかる費用や時間についての認識と裁判利用行動意図の関係 裁判未経験者と経験者の比較
3.学会等名
日本法社会学会
4.発表年
2021年

1.発表者名 OTA, Shozo
2.発表標題 Scientific Methods for Legal Studies: Brain Science, Cognitive Science, and Field Experiment
3.学会等名 Asian Law and Economics Association(招待講演)(国際学会)
4.発表年 2021年
1.発表者名 OTA, Shozo
2.発表標題 Current Trends and Challenges in the Study of Law and Society in Japan
3.学会等名 Asian Law and Society Association(招待講演)(国際学会)
4 . 発表年 2021年
1.発表者名 太田勝造
2 . 発表標題 研究の国際化の意義・方法・課題
3.学会等名 日本法社会学会(招待講演)
4 . 発表年 2021年
1.発表者名 太田勝造
2 . 発表標題 認知脳科学と法実務
3.学会等名 日本法社会学会
4 . 発表年 2021年

1.発表者名
OTA, Shozo
2. 発表標題
People's Attitude toward Al Court: How and To What Extent Should Al Assist the Judges?
3.学会等名
Law and Society Association (国際学会)
Law and Socrety Association (国际子云)
. The fr
4. 発表年
2021年
1.発表者名
太田勝造
2.発表標題
『AI裁判』に対する人々の受け止め方: 経験科学的な法社会学研究の試み
3 . 学会等名
明治大学法学研究会(招待講演)
4 . 発表年
2021年
2021
1.発表者名
OTA, Shozo
2.発表標題
2 . 発表標題 Case Settlement by Judicial Mediation: From Law and Behavioral Economics Perspectives
Case Settlement by Judicial Mediation: From Law and Behavioral Economics Perspectives
Case Settlement by Judicial Mediation: From Law and Behavioral Economics Perspectives 3 . 学会等名
Case Settlement by Judicial Mediation: From Law and Behavioral Economics Perspectives
Case Settlement by Judicial Mediation: From Law and Behavioral Economics Perspectives 3 . 学会等名 Mongolian Law and Economics Association (招待講演) (国際学会)
Case Settlement by Judicial Mediation: From Law and Behavioral Economics Perspectives 3 . 学会等名 Mongolian Law and Economics Association (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年
Case Settlement by Judicial Mediation: From Law and Behavioral Economics Perspectives 3 . 学会等名 Mongolian Law and Economics Association (招待講演) (国際学会)
Case Settlement by Judicial Mediation: From Law and Behavioral Economics Perspectives 3 . 学会等名 Mongolian Law and Economics Association (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2021年
Case Settlement by Judicial Mediation: From Law and Behavioral Economics Perspectives 3 . 学会等名 Mongolian Law and Economics Association (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年
Case Settlement by Judicial Mediation: From Law and Behavioral Economics Perspectives 3 . 学会等名 Mongolian Law and Economics Association (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2021年
Case Settlement by Judicial Mediation: From Law and Behavioral Economics Perspectives 3 . 学会等名 Mongolian Law and Economics Association (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2021年
Case Settlement by Judicial Mediation: From Law and Behavioral Economics Perspectives 3 . 学会等名 Mongolian Law and Economics Association (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2021年
Case Settlement by Judicial Mediation: From Law and Behavioral Economics Perspectives 3 . 学会等名 Mongolian Law and Economics Association (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2021年
Case Settlement by Judicial Mediation: From Law and Behavioral Economics Perspectives 3 . 学会等名 Mongolian Law and Economics Association (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2021年 1 . 発表者名 浅水屋剛・太田勝造
Case Settlement by Judicial Mediation: From Law and Behavioral Economics Perspectives 3 . 学会等名 Mongolian Law and Economics Association (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2021年 1 . 発表者名 浅水屋剛・太田勝造
Case Settlement by Judicial Mediation: From Law and Behavioral Economics Perspectives 3 . 学会等名 Mongolian Law and Economics Association (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2021年 1 . 発表者名 浅水屋剛・太田勝造
Case Settlement by Judicial Mediation: From Law and Behavioral Economics Perspectives 3 . 学会等名 Mongolian Law and Economics Association (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2021年 1 . 発表者名 浅水屋剛・太田勝造
Case Settlement by Judicial Mediation: From Law and Behavioral Economics Perspectives 3 . 学会等名 Mongolian Law and Economics Association (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2021年 1 . 発表者名 浅水屋剛・太田勝造
Case Settlement by Judicial Mediation: From Law and Behavioral Economics Perspectives 3 . 学会等名 Mongolian Law and Economics Association (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2021年 1 . 発表者名 浅水屋剛・太田勝造 2 . 発表標題 リーガルマインドの脳神経科学: 法的判断と感情
Case Settlement by Judicial Mediation: From Law and Behavioral Economics Perspectives 3 . 学会等名 Mongolian Law and Economics Association (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2021年 1 . 発表者名 浅水屋剛・太田勝造 2 . 発表標題 リーガルマインドの脳神経科学: 法的判断と感情
Case Settlement by Judicial Mediation: From Law and Behavioral Economics Perspectives 3 . 学会等名 Mongolian Law and Economics Association (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2021年 1 . 発表者名 浅水屋剛・太田勝造 2 . 発表標題 リーガルマインドの脳神経科学: 法的判断と感情
Case Settlement by Judicial Mediation: From Law and Behavioral Economics Perspectives 3 . 学会等名 Mongolian Law and Economics Association (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2021年 1 . 発表者名 浅水屋剛・太田勝造 2 . 発表標題 リーガルマインドの脳神経科学: 法的判断と感情
Case Settlement by Judicial Mediation: From Law and Behavioral Economics Perspectives 3 . 学会等名 Mongolian Law and Economics Association (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2021年 1 . 発表者名 浅水屋剛・太田勝造 2 . 発表標題 リーガルマインドの脳神経科学: 法的判断と感情
Case Settlement by Judicial Mediation: From Law and Behavioral Economics Perspectives 3 . 学会等名 Mongolian Law and Economics Association (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2021年 1 . 発表者名 浅水屋剛・太田勝造 2 . 発表標題 リーガルマインドの脳神経科学: 法的判断と感情 3 . 学会等名 法社会学会 4 . 発表年
Case Settlement by Judicial Mediation: From Law and Behavioral Economics Perspectives 3 . 学会等名 Mongolian Law and Economics Association (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2021年 1 . 発表者名 浅水屋剛・太田勝造 2 . 発表標題 リーガルマインドの脳神経科学: 法的判断と感情
Case Settlement by Judicial Mediation: From Law and Behavioral Economics Perspectives 3 . 学会等名 Mongolian Law and Economics Association (招待講演) (国際学会) 4 . 発表年 2021年 1 . 発表者名 浅水屋剛・太田勝造 2 . 発表標題 リーガルマインドの脳神経科学: 法的判断と感情 3 . 学会等名 法社会学会 4 . 発表年

1.発表者名 太田勝造
2 . 発表標題 A I に対する人々の期待と不安:自動運転車とAI裁判所
3.学会等名 東京大学法学部基礎法学研究会(招待講演)
4 . 発表年 2019年
1.発表者名 太田勝造
2.発表標題 訴訟利用調査の概要と基本集計
3.学会等名 日本法社会学会学術大会
4.発表年 2019年
1.発表者名 太田勝造
2.発表標題 法的支援システムに基づく裁判は人々に受け容れられるか?
3.学会等名 日本法社会学会学術大会
4 . 発表年 2019年
1.発表者名 太田勝造
2.発表標題 モンゴルの土地私有制度の創設
4.発表年 2019年

1.発表者名
太田勝造,浅水屋剛
2 ジェー語 日本
2.発表標題
Brain-Science of `Legal Mind': MRI Experiments Comparing the Brain Activities of Legal Professionals and Lay Persons
3.学会等名
Law & Society Association Annual Meeting(国際学会)
4 . 発表年
2019年
1.発表者名
太田勝造
2.発表標題
A I 裁判支援システムへの人々の期待と受容:People's Expectation and Attitude toward Al-assisted Courts
3.学会等名
人工知能学会年次大会
X Table 1 A 1 XXX
4.発表年
2019年
1.発表者名
太田勝造
Диме
2 . 発表標題
Overview of Civil Litigation Research Project
3,000
2
3.学会等名
Annual Meeting of Research Committee on Sociology of Law (RCSL)(国際学会)
4.発表年
2019年
2010
1.発表者名
太田勝造
2 双主证明
2 . 発表標題
People's Attitudes Toward Al-Court Comparing Self-driving Car and Al-Court
3.学会等名
Seminar for Thai Judges on Law & Technology at Meiji University(招待講演)(国際学会)
. The first fee
4 . 発表年
2019年

1.発表者名 太田勝造
2 . 発表標題 交渉重視の調停:私的自治と取引費用
3.学会等名 東京地方裁判所民事調停協会連合会研修(招待講演)
4 . 発表年 2019年
1.発表者名 太田勝造
2 . 発表標題 弁護士としての交渉のあり方
4. 発表年 2019年
1.発表者名 太田勝造
2 . 発表標題 政策科学としての法学:Evidence-Based Law
3.学会等名 Law未来の会シンポジウム(招待講演)
4 . 発表年 2019年
1.発表者名 太田勝造
2.発表標題 AIとリーガル・マインド:Beyond Reasonable Doubt & People's Attitude
3.学会等名 国立情報学研究所シンポジウム(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1 . 発表者名 太田勝造
2.発表標題 知的財産権の法と行動経済学
3.学会等名 著作権情報センターセミナー(招待講演)
4 . 発表年 2019年
1 . 発表者名 太田勝造
2.発表標題
2 : 光衣標題 法・経済・人間・社会:文理融合研究分野としての法
3.学会等名 政策投資銀行役員会研修(招待講演)
4 . 発表年 2019年
1 . 発表者名 太田勝造
2.発表標題
Z . 光衣標題 The Intercollegiate Negotiation Competition and The International Negotiation Competition
3.学会等名
JURISIN 2019 at NII(国際学会)
4 . 発表年 2019年
1.発表者名
太田勝造
2.発表標題
Al Judges or Human Judges: People's Attitude toward A.I.
3.学会等名
Asian Law & Society Association Annual Meeting(国際学会)
4 . 発表年 2019年

1.発表者名 太田勝造,浅水屋剛,齋藤宙治,樋口亮介,成瀬剛,加藤淳子
2. 発表標題 Emotion and Reason in Legal Judgments: Brain Science on Legal Mind
The state of the s
3.学会等名 Asian Law & Society Association Annual Meeting(国際学会)
4.発表年
2019年
1.発表者名 太田勝造
AIに対する人々の期待と不安:AI裁判所
中国裁判官ワークショップ(国立情報学研究所)(招待講演)(国際学会)
4.発表年
2019年
1.発表者名 太田勝造
2.光衣標題 交渉による合意に基づく紛争解決
3.学会等名 東京弁護士会研修(招待講演)
4
4. 発表年 2019年
1.発表者名
太田勝造
司法書士の社会的使命:問題解決エクスパート
3 . 子云寺石 司法書士法改正記念講演会(招待講演)
4.発表年
2020年

1.発表者名 浅水屋剛
2.発表標題 法律家と非法律家が法的判断をする際の脳科学的構造の異同:fMRI(機能的磁 気共鳴画像法)を用いたリーガル・マインドの探求
4.発表年 2019年
1.発表者名 浅水屋剛
2.発表標題 A Brain-Science of "Legal Mind": MRI Experiments Comparing the Brain Activities of Legal Professionals and Lay Persons
3.学会等名 Research Committee for Sociology of Law Annual Meeting(国際学会)
4 . 発表年 2019年
1.発表者名 浅水屋剛
2.発表標題 法的判断の神経相関:法的専門知識と法秩序に対する信頼は差を生むか?
3.学会等名 日本神経科学大会
4.発表年 2019年
1.発表者名 浅水屋剛
2 . 発表標題 法的判断の神経相関
3 . 学会等名 ヒト脳イメージング研究会
4 . 発表年 2019年

1. 発表者名
浅水屋剛
2.発表標題
The neural correlate of legal judgment: Do legal expertise and a trust in the law make a difference ?
3.学会等名
Neuroscience 2019(国際学会)
=
4. 発表年
2019年
1. 発表者名
浅水屋剛
2.発表標題
と、光表情趣 法的判断の神経基盤を探る
/ADJ-1回U中社奉金で1本の
3.学会等名
CiShuB公開講義
4 . 発表年
2019年
1. 発表者名
森大輔,髙橋脩一,飯田高
0 TV + 14 F IX
2.発表標題
広告の打消し表示において文字の大きさや配置はどれほど 重要か? サーベイ実験
3.学会等名
法と経済学会全国大会
以こに対する王国八公
4 . 発表年
2019年
1 . 発表者名
森大輔
2.発表標題
懲罰的賠償と利益吐き出し:消費者詐欺の事例によるサーベイ実験
3 . 学会等名
3.子云寺石 日本応用経済学会秋季大会
山平旭用社用于云怀子八云
4.発表年
2019年
E010

1.発表者名
森大輔
2.発表標題
日本における死刑の抑止効果:政府統計データを用いた計量分析
3.学会等名
日本応用経済学会秋季大会
4.発表年
2019年
1.発表者名
森大輔
2 . 発表標題
一般人調査と訴訟利用者スクリーニング調査の分析(ミニシンポジウム 「超 高齢社会の紛争経験と司法政策プロジェクト:調査の実施
経過および結果の概要」)
3 . 学会等名 日本法社会学会学術大会
4 . 発表年 2019年
1.発表者名 森大輔,池田康弘
2 . 発表標題 Rent-Seeking Model of Litigation and Punitive Damages Multiplier, 6th Economic Analysis of Litigation Workshop
Rent-Seeking woder of Littigation and Funitive Damages wuitipiter, oth Economic Analysis of Littigation workshop
3 . 学会等名
Campus Universario de La Cartuja, Granada, Spain(国際学会)
4 . 発表年
2019年
1.発表者名
岡田謙介
2 . 発表標題
因果効果を評価するための研究デザインと統計分析,オープンサイエンス
3.学会等名
日本教育心理学会
4.発表年
4 · 元权年 2019年

1 . 発表者名 岡田謙介
2.発表標題
異質性に取り組む数理・計量心理学のベイズ統計的アプローチ
3.学会等名
日本行動軽量学会
4.発表年 2019年
1.発表者名
「一・光衣有右 藤田和也・岡田謙介
2.発表標題
モデル選択の観点からの適応的な実験刺激選択法
3 . 学会等名
日本計算機統計学会
4.発表年 2019年
1.発表者名
藤田和也・岡田謙介
2.発表標題
認知モデリングにおける実験刺激の選択について ーモデル選択とパラメータの推定精度の観点からー
3 . 学会等名 日本行動計量学会
4 . 発表年 2019年
「1.発表者名
藤田和也・岡田謙介
2 . 発表標題
Adaptive task selection in decision-making tasks under uncertainty for the measurement of subjective probability
3.学会等名 Annual Meeting of the Society for Mathematical Psychology(国際学会)
4. 発表年
2019年

. What do
1.発表者名
加藤淳子
2.発表標題
リーガルマインドの政治学:感情と法的判断
3.学会等名
中央大学感性工学・認知科学クラスターシンポジウム
4.発表年
2019年
1. 発表者名
加藤淳子
2.発表標題
2 . 光衣标题 Neural Correlate of Legal Judgment with and without Expertise
Neural Correlate of Legal Judgment with and without expertise
3. 学会等名
oint Research Workshop on Experimental Social Sciences(国際学会)
4 . 発表年
2019年
1.発表者名
加藤淳子
2 X = 15
2.発表標題
社会における人間の行動を理解するとは?
3.学会等名
東京大学こころの多様性と適応の統合的研究機構 平成30年度公開シンポジウム(招待講演)
NAME OF THE PROPERTY OF THE PR
4.発表年
2018年
1.発表者名
加藤淳子,高橋愛
2 . 発表標題
福祉国家の再分配の平等をめぐるfMRI実験
3.学会等名
3 - 子云寺石 第22回実験社会科学カンファレンス
ル44円 大阪 I L ム 1 1 プリノノ ノ レ ノ ハ
4.発表年
2018年

1.発表者名 太田勝造
VIIII/C
2 . 発表標題 交渉の理論と技術
スル () - 1 (iii) () (iii)
3 . 学会等名 日本弁護士連合会ライブ研修会(招待講演)
4.発表年
2018年
1.発表者名 太田勝造
人由 <i>附</i> 垣
2 . 発表標題 Preliminary Report on the Civil Litigation Research Project: An Empirical Study on the Attitude and Behavior of Civil
Litigants and Their Lawyers in Japan
3.学会等名 Law & Society Association Annual Meeting(国際学会)
4 . 発表年 2018年
1.発表者名
了,光衣有石 浅水屋剛,加藤淳子,太田勝造,樋口亮介,成瀬剛,高橋愛,齋藤宙治
2 . 発表標題
Z . 光环標題 The Neural Correlate of Legal Judgment: MRI Experiment on the Legal Mind
3.学会等名
日本神経科学大会(国際学会)
4.発表年
2018年
1.発表者名
浅水屋剛,太田勝造,加藤淳子
2.発表標題
The Neuro-cognitive Structure of Lay Perception and Judgments on Legal Problems: Standard of Proof and Defendant's Repentance in Criminal Procedure
3 . 学会等名
RCSL Lisbon Meeting(国際学会)
4. 発表年
2018年

1.発表者名 太田勝造,佐藤岩夫,阿部昌樹
2. 発表標題 Disputing Behavior and Judicial Policy in the Super-Aging Society: Backgrounds and Research Design of the Civil Justice Research Project in Japan
3 . 学会等名 RCSL Lisbon Meeting(国際学会)
4 . 発表年 2018年
1.発表者名 太田勝造,飯考行
2 . 発表標題 Survey of Civil Litigants and Their Lawyers 2018: Its Outline and Early Findings
3 . 学会等名 RCSL Lisbon Meeting(国際学会)
4 . 発表年 2018年
1.発表者名 太田勝造
2 . 発表標題 法学者からのAI技術導入についての期待
3 . 学会等名 日本学術会議高階シンポジウム(AIによる法学へのアプローチ)(招待講演)
4 . 発表年 2019年
1.発表者名 太田勝造
2 . 発表標題 People's Attitudes toward A.I.: Self-driving Car and A.I. Court
3 . 学会等名 Legal Data Mining Conference(国際学会)
4 . 発表年 2019年

1	淼	丰	耂	夕

Bunji, K., & Okada, K.

2 . 発表標題

Extending the diffusion-IRT model to forced-choice response time data

3 . 学会等名

IMPS 2018: the 83rd Annual Meeting of the Psychometric Society (国際学会)

4.発表年

2018年

1.発表者名

Okada, K., Hojo, D., & Takahashi, Y.

2 . 発表標題

Bayesian item response mixture model for evaluating the stability of response style

3 . 学会等名

MathPsych/ICCM 2018: the 51st Society for Mathematical Psychology & 16th International Conference on Cognitive Modelling Meetings (国際学会)

4.発表年

2018年

1.発表者名

Bunji, K., & Okada, K.

2.発表標題

Modeling forced-choice version of questionnaires on the big five factors for reducing response biases

3.学会等名

MathPsych/ICCM 2018: the 51st Society for Mathematical Psychology & 16th International Conference on Cognitive Modelling Meetings (国際学会)

4.発表年

2018年

1.発表者名

Hojo, D., & Okada, K.

2 . 発表標題

Classification and individual differences of response style using anchoring vignettes

3 . 学会等名

MathPsych/ICCM 2018: the 51st Society for Mathematical Psychology & 16th International Conference on Cognitive Modelling Meetings (国際学会)

4 . 発表年

2018年

a Nichard
1 . 発表者名 岡田謙介
2.発表標題
ベイズ統計学の考え化と方法
日本認知心理学会第16回大会(招待講演)
4.発表年
2018年
1. 発表者名
藤田和也,岡田謙介
2 . 発表標題
主観確率の測定法の改善について:思考状態に着目して
3.学会等名
3 . 子云寺台 日本行動計量学会第46回大会
口平门到市里于云为40四八云
2018年
1.発表者名
岡田謙介
心理学における再現性の問題と「社会的ジレンマ」の解決へ向けて
3.学会等名
3 . チ云寺日 日本教育心理学会大会第60回総会 準備委員会企画チュートリアルセミナー(招待講演)
日本教育心理子会八会第00回総会 平備委員会正画アユートダナルとミナー(1日7時度)
4.発表年
2018年
1.発表者名
岡田健介
心理学におけるベイズ統計的方法の活用
3.学会等名
3 . 子云寺石 日本心理学会第82回大会 大会準備委員会企画シンポジウム「ベイズ理論の展開」(招待講演)
ログルナーム和グロハス 八五千冊女見五正門ノノかノノム・ハーヘ圧間が放用」(1717時次)
4 . 発表年
2018年

1.発表者名
藤田和也,岡田謙介
2. 艾丰福昭
2.発表標題 不確実性になける思想プロスペクト理論
不確実状況における累積プロスペクト理論
3 . 学会等名
日本計算機統計学会第32回シンポジウム(招待講演)
4.発表年
2018年
1.発表者名
岡田謙介
2. 艾丰福晤
2 . 発表標題 ************************************
教育工学研究におけるベイズ統計の応用,RとRStudioを使ったベイズ統計の演習
3.学会等名
日本教育工学会 2018年度冬の合宿研究会(招待講演)
4.発表年
2019年
1.発表者名
岡田謙介
N. de UT UT
2 . 発表標題
再現性問題における統計学的論点とその解決に向けて
3.学会等名
3. テムマロ 日本発達心理学会・他学会等共催シンポジウム「今そこにある危機:再現可能性問題をめぐる現状と展望」
ロールとした。A 10丁ムサスほととかとテス 7 CCにのも心臓・中がり形は凹板との(もが外に成土)
4 . 発表年
2019年
1 . 発表者名
Daisuke Mori, Shuichi Takahashi, Yasuhiro Ikeda
2.発表標題
Comparative survey about people's perception of damages in Japan and the U.S.
3.学会等名
っ、子云守石 The Inaugural Congress of East Asian Sociological Association (国際学会)
The mangeral congress of Last Asian sociological Association(四体子云)
4 . 発表年
2019年

1.発表者名
工,完衣看名 森大輔
***/\+m
2.発表標題
横断的な回答比較(ミニシンポジウム(1) :法的ニーズについて 法曹人口調査データの二次分析)
3 . 学会等名
司法アクセス学会第12回学術大会
4.発表年
2018年
1.発表者名
Daisuke Mori
Datisure Wolf
2. 発表標題
How are Japanese people seeing the aging society as legal issues?: Findings from Internet Survey of General Public Regarding
Civil Litigation 2018
3.学会等名
RCSL Lisbon Meeting (国際学会)
Nool Library (Elw J Z)
4.発表年
2018年
1. 発表者名
森大輔
2.発表標題
損害賠償の目的に関する日米比較調査の結果報告
3.学会等名
第16回法と経済学会全国大会
4.発表年
2018年
1. 発表者名
森大輔
3 7V ± 1# R5
2.発表標題
アンケート調査の変数間の必要条件分析 ファジィ集合質的比較分析による統計分析
3 . 学会等名
第66回数理社会学会大会
4.発表年
2018年

1 . 発表者名 森大輔	
WAY YELD	
2. 発表標題	
二次分析、構造方程式モデリング その基本	
3.学会等名	
日本法社会学会2018年度学術大会	
4.発表年	
2018年	
(國書) = 100/H	-
〔図書〕 計22件1 . 著者名	4.発行年
佐藤岩夫,阿部昌樹,太田勝造編著	2023年
2.出版社 東京大学出版会	5.総ページ数 731
スポバナロ IIX ム	
3 . 書名	
現代日本の紛争過程と司法政策	
1.著者名	4 . 発行年
佐藤岩夫,阿部昌樹編著(森大輔分担執筆)	2022年
2.出版社	5.総ページ数
北王子書房	3 . 総ページ数 320
3 . 書名	
スタンダード法社会学(森大輔,「法社会学における『方法』」)	
1. 著者名	4.発行年
佐藤健,新田克己,西貝吉晃,狩野芳伸,本村陽一,高岡昂太,高橋和子,太田勝造	2022年
2.出版社	5.総ページ数
近代科学社	194
3 . 書名	
人工知能と法律	

	,
1 . 著者名 熊本大学法学部編(森大輔分担執筆)	4 . 発行年 2022年
	F WAS > ***L
2.出版社 成文堂	5 . 総ページ数 347
3.書名 熊本地震と法・政策	
1 . 著者名 沖野眞已 = 丸山絵美子 = 水野紀子 = 森田宏樹 = 森永淑子編(米村滋人分担執筆)	4 . 発行年 2022年
2.出版社信山社	5.総ページ数 ¹¹⁷⁸
3.書名 これからの民法・消費者法()(米村「医薬品の欠陥判断と過失判断」)	
1.著者名 大林啓吾編(森大輔分担執筆)	4 . 発行年 2021年
2. 出版社 青林書院	5 . 総ページ数 271
3 . 書名 感染症と憲法(森「流言・デマへの対処と表現の自由:法社会学からの分析」)	
	<u> </u>
1.著者名 佐藤健,新田克己,西貝吉晃,狩野芳伸,本村陽一,高岡昂太,高橋和子,太田勝造	4 . 発行年 2022年
2.出版社 近代科学社	5 . 総ページ数 194
3.書名 人工知能と法律	

1.著者名 佐藤岩夫,阿部昌樹編著(森大輔分担執筆)	4 . 発行年 2022年
2.出版社 北王子書房	5.総ページ数 320
3.書名 スタンダード法社会学(森大輔,「法社会学における『方法』」)	
1.著者名 佐藤岩夫,阿部昌樹,太田勝造編著(太田勝造,森大輔分担執筆)	4 . 発行年 2023年
2.出版社 東京大学出版会	5.総ページ数 731
3.書名 現代日本の紛争過程と司法政策	
1.著者名 熊本大学法学部編(森大輔分担執筆)	4 . 発行年 2022年
2.出版社成文堂	5.総ページ数 347
3.書名 熊本地震と法・政策	
1.著者名 沖野眞已 = 丸山絵美子 = 水野紀子 = 森田宏樹 = 森永淑子編(米村滋人分担執筆) 	4 . 発行年 2023年
2.出版社 信山社	5.総ページ数 ¹¹⁷⁸
3.書名 これからの民法・消費者法()(米村「医薬品の欠陥判断と過失判断」)	

	1 . =
1. 著者名	4 . 発行年
森大輔	2021年
2.出版社	5.総ページ数
	5 . 総ペーン数 36
HTT EM	""
大林啓吾編『感染症と憲法』(森・「流言・デマへの対処と表現の自由:法社会学からの分析」)	
	J
	T 4 38/- F-
1 . 著者名	4 . 発行年
ダニエル・ホロウェイ (太田勝造監訳)	2021年
2.出版社	5 . 総ページ数
2 . 山城社 木鐸社	3 . Aicハーシ女 345
(1284年)上	
3 . 書名	
法実務と認知脳科学:交渉・説得・弁論	
	J
1 英老夕	A Z \$/二左
1.著者名	4 . 発行年
太田勝造(編著)	2020年
2.出版社	5.総ページ数
	280
3 . 書名	
A I 時代の法学入門:学際的アプローチ	
<u>L</u>	1
1.著者名	4 . 発行年
	2022年
2. 出版社	5.総ページ数
木鐸社	261
つ 妻々	
3.書名 知能の部件	
知能の誕生	
	<u> </u>

1 英名夕	4 整仁左
1. 著者名	4 . 発行年
日本弁護士連合会編(太田勝造分担執筆)	2020年
2.出版社	5 . 総ページ数
2 · 山城社	5 . 総ペーシ数 784
第 [−] /広戍	764
3.書名	
現代法実務の諸問題	
元(ハス大4カンの日)の経	
1.著者名	4 . 発行年
太田勝造,ダニエル・H・フット,濱野亮(共編著)	2019年
八田四に、ノーエル・・・ファ・ハスカル(八冊日)	2010—
2. 出版社	5.総ページ数
信山社	592
194 194	
3 . 書名	
法の経験的社会科学の確立に向けて	
1.著者名	4.発行年
太田勝造	2018年
2. 出版社	5 . 総ページ数
清水書院	272
3 . 書名	
法と話し合い:法の中心は交渉である(野村美明,江口勇治,小貫篤,齋藤宙治(共編著)話し合いでつ	
くる 中・高 公民の授業:交渉で実現する深い学び(分担執筆))	
	4 2V/- F
1. 著者名	4.発行年
太田勝造,加藤新太郎,大塚直,田高寛貴(共編著)	2018年
2 41年5年	E 4分ペ ご**h
2.出版社	5.総ページ数
信山社	886
3.書名	
21世紀民事法学の挑戦(上)	

1.著者名 太田勝造,加藤新太郎,大塚直,田高寛貴(共編著)	4.発行年 2018年
2.出版社 信山社	5.総ページ数 880
3.書名 21世紀民事法学の挑戦(下)	
1.著者名 太田勝造,豊田愛祥,林圭介,斎藤輝夫(共編著)	4 . 発行年 2018年
2.出版社 信山社	5.総ページ数 ⁵⁵²
3 . 書名 和解は未来を創る	
1 . 著者名 岡田謙介	4 . 発行年 2018年
2. 出版社 金子書房	5.総ページ数 5
3 . 書名 発達心理学研究における現代的な統計モデリング (河合優年編 児童心理学の進歩 2018年版 (分担執筆))	
〔産業財産権〕	
〔 その他 〕 《マス・メディアでの紹介記事》	
『上毛新聞』の特集「脳とこころ:御巣鷹に逝った科学者」(「法的判断に活かせるか」(2022年10月13日(社会面)18頁) 14日(社会面)20頁),「AI裁判バイアス減らす」(10月17日(社会面)18頁))	,「投票関わる脳活動研究」(10月

6.研究組織

6	. 研究組織		
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
	加藤 淳子	東京大学・大学院法学政治学研究科(法学部)・教授	
研究分担者	(KATO Junko)		
	(00251314)	(12601)	
	佐藤 健	国立情報学研究所・情報学プリンシプル研究系・教授	
研究分担者	(SATOH Ken)		
	(00271635)	(62615)	
	浅水屋 剛	東京大学・大学院法学政治学研究科(法学部)・助教	
研究分担者	(ASAMIZUYA Takeshi)		
	(00377920)	(12601)	
	今井 耕介	東京大学・大学院法学政治学研究科(法学部)・教授	
研究分担者	(IMAI Koduke)		
	(00780032)	(12601)	
	岡田 謙介	東京大学・大学院教育学研究科(教育学部)・准教授	
研究分担者	(OKADA Kensuke)		
	(20583793)	(12601)	
	齋藤 宙治	東京大学・大学院法学政治学研究科(法学部)・特任講師	
研究分担者	(SAITO Hiroharu)		
	(20779392)	(12601)	
	米村 滋人	東京大学・大学院法学政治学研究科(法学部)・教授	
研究分担者	(YONEMURA Shigeto)		
	(40419990)	(12601)	
	森大輔	熊本大学・大学院人文社会科学研究部(法)・准教授	
研究分担者	(MORI Daisuke)		
	(40436499)	(17401)	
<u> </u>	(10.00400)	(····~·)	

6.研究組織(つづき)

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
	飯田 高	東京大学・社会科学研究所・教授	
研究分担者	(IIDA Takashi)		
	(70345247)	(12601)	

7.科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------